

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県かつらぎ町

自治体名：和歌山県かつらぎ町

担当課名：かつらぎ町教育委員会教育総務課

電話番号：0736-22-8347

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	151.69km ²
人口	15,035人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	330人
部活動数 (運動部活動のみ)	14部活
地域クラブ活動数	3クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本町の児童生徒数は、昨年度初めて1,000名を切り、今年度は、小学生642名、中学生330名の計972名であり、さらに減少が続いている。2つの中学校は同規模で、笠田中学校168名、妙寺中学校162名であり、活動中の運動部は、笠田中学校7部、妙寺中学校7部であるが、ほとんどの部活で慢性的な部員不足が続いている。そのなかで、笠田中学校野球部と妙寺中学校野球部が近隣市町の中学校との合同チームとなっている。また、昨年度まで休部中であった笠田中学校女子バスケットボール部は入部希望者があったが、存続の条件としていた人数が集まらず廃部となった。今後も部員不足で合同チームや廃部となる部活が増えることが予想される。

地域連携、地域移行については、今年度は15名の地域人材により7部活（クラブ）で指導を行った。当該部活（クラブ）在籍の生徒からは「地域の指導者から専門的な指導を受けることができた」「希望する運動部活動を行えた」「他校の生徒との交流が広がった」など好評である。特に、昨年度から活動を行っている「妙寺クラブ

（陸上）」からは和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会の本町代表に小・中学生合わせて9名が選ばれるなど、陸上競技の普及・発展のみならず、町内の児童生徒の基礎体力づくりに大きく寄与している。また、広域に渡る地域クラブとして、本町生徒に加え近隣の市町の生徒が加入している「ブルッラ（バレーボール）」は今年度も部員数・指導者数ともに安定的に確保されるとともに、保護者の協力を得ながら、地区大会で優勝し県大会でも勝利するなど好成績を残している。また、上記笠田中学校バスケットボール部廃部に伴う入部希望者への救済策として、拠点校方式の制度を年度当初に急遽整え、希望する笠田中学校の生徒が妙寺中学校バスケットボール部で活動を行っている。

また、アンケート結果からは、地域展開の意義や必要性を理解する保護者や地域住民の数は着実に増加していることがうかがえる。

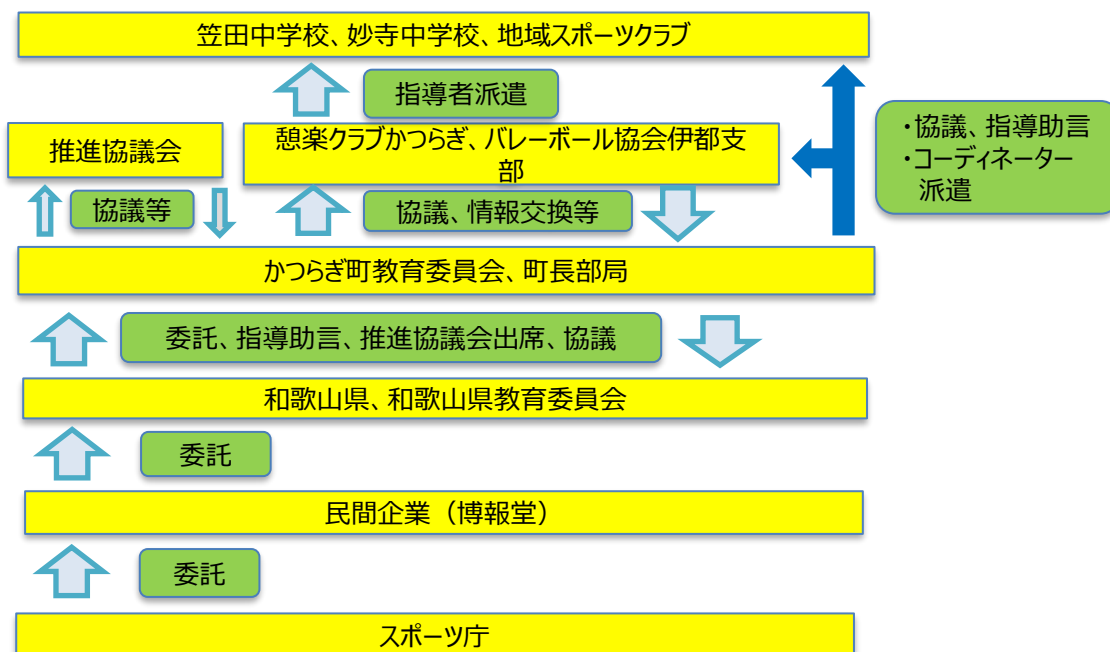
課題は、以下が考えられる。

- ①今後、国からの補助が減少した場合の本町独自予算の確保
- ②地域人材（指導者）の確保、マッチングする仕組みの構築
- ③平日と休日の一貫指導のための連携・協力体制の構築
 - ・ 中学校教員対象アンケートから、学校部活動が地域のスポーツ団体等に移行した場合、その活動に従事することを積極的に希望する割合は非常に低かったことなどからの教員を地域人材として確保することの困難さ
 - ・ 高齢化が進むなかでの、特に平日に指導可能な若手人材の確保の困難さ
- ④費用負担のあり方の整理やその必要性の周知や啓発
 - ・ 保護者対象アンケートから、送迎や活動費用などの受益者負担への反対や不安を感じる意見
- ⑤地域人材（指導者）の研修の充実
- ⑥生徒の部活動環境充実に向けた学校と地域の協働体制の構築
- ⑦活動場所の確保と連絡調整
- ⑧移動方法の確保と連絡調整

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育総務課）

- 事業立案・実施、指導者の確保、推進協議会開催、他市町との連携・調整・情報交換
- コーディネーターによる学校（生徒・保護者・教員）・指導者・地域スポーツクラブ・中体連・県教委との連絡調整、実証事業関係事務処理、町予算の立案・会計処理

◎首長部局（会計課、まちづくり推進課）

- ・予算措置
- ・地域住民への広報、教育委員会への指導者等の情報提供

年間の事業スケジュール

4月	関係者ミーティング(年度方針の確認) 指導者・関係生徒・保護者への説明 年度当初の事務手続き 活動開始(ブルッフラ、妙寺クラブ) コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(不祥事等防止等)
5月	活動開始(各中学校派遣の指導者) コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(協議、意見集約)
6月	関係者ミーティング (進捗状況の確認と情報共有、課題の洗い出しと対応協議) コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(協議、意見集約等)
7月	総合型地域スポーツクラブ及び競技団体と協議 中体連関係者との意見交換 教育長、教育委員会関係者による各部活(クラブ)視察
8月	コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(不祥事防止等) 総合型スポーツクラブ、競技団体関係者と協議
9月	関係団体との意見交換 (スポーツ協会、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団) コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(協議、意見集約)
10月	コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(協議、意見集約等)
11月	コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(不祥事防止等) 来年度予算案等協議、関係書類作成 総合型スポーツクラブ、競技団体関係者と協議
12月	第1回推進協議会 各地域クラブの次年度中体連登録手続き アンケート実施(中学生、保護者、地域クラブ関係者等) コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(協議、意見集約等)
1月	関係者ミーティング (課題の洗い出しと来年度の対応協議) 教育長、教育委員会関係者による各部活(クラブ)視察
2月	コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(協議、意見集約) 総合教育会議
3月	コーディネーターによる各部活(クラブ)視察(年度の振り返り) 関係者ミーティング(1年間の総括、次年度に向け協議) 第2回推進協議会 年度末の事務処理

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		7クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	6クラブ（6部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	1クラブ	
全体の指導者数	15人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
妙寺クラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上	・ 平日2回 ・ 休日1回	16:00～18:00 8:00～11:00	3人(中1) 3人(中3) 59人(小学生)	通年	2人	1人 (内、兼務1人)	0円 /年額	中体連：部活動
ブルッフラ	競技団体	バレーボール	・ 平日3～4回 ・ 休日1回	19:00～21:00 13:00～16:00	7人(中1) 7人(中2) 8人(中3) 37人(小学生)	通年	4人	1人 (内、兼務1人)	1,000円 /月額	中体連：部活動
妙寺中学校バスケットボール部(女子)	総合型地域スポーツクラブ	バスケットボール	・ 平日3～4回 ・ 休日1回	16:00～18:00 8:00～11:00	5人(中1) 3人(中2) 3人(中3)	通年	3人	1人 (内、兼務1人)	0円 /年額	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●多世代参加の取組

- ①上記妙寺クラブ（陸上）では、小学生に加え、保護者や一般成人が練習に参加するとともに、親子で地域のスポーツ大会（マラソン）にも出場した。
- ②上記ブルッフラ（バレーボール）では、小学生に加え、海外からの生徒が活動に参加した。

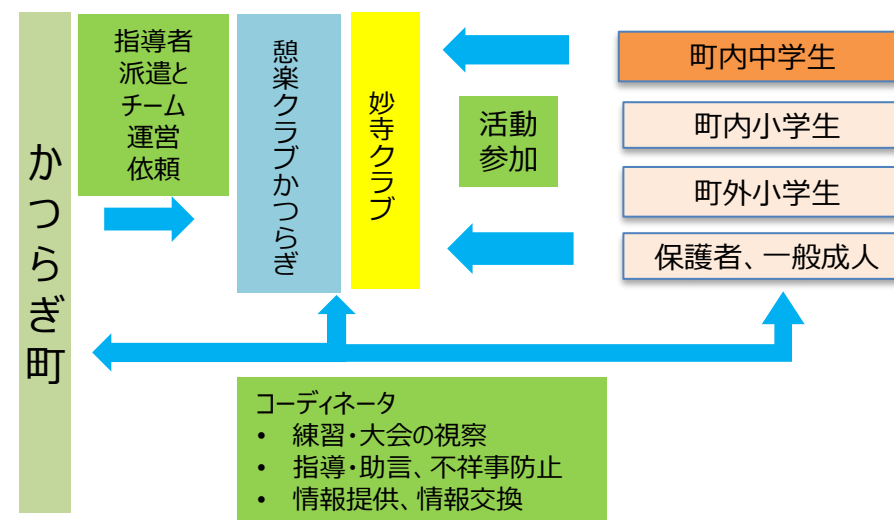
2.実証内容と成果

主な取組例

●妙寺クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上
運営団体名	憩楽クラブかつらぎ
期間と日数	4月1日～3月31日 週3～4回程度
指導者の主な属性	自営業（元教員） 大学生
活動場所	かつらぎ公園グラウンド かつらぎ体育センター 笠田中学校
主な移動手段	保護者送迎 自転車 徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,200円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●自治体（地域部活動推進コーディネーター）

役割：統括責任者・指導者・保護者との連絡調整、意見交換、情報交換
指導者へのハラスメントや不祥事防止の啓発や指導
学校と教育委員会との連絡調整、指導者の確保

●統括責任者（憩楽クラブマネージャー）

役割：活動における管理者として、指導者への指導助言、町教委との連携

●主任指導者1名

役割：生徒への指導及び保護者・町教委との連携
指導者の役割分担、練習・指導計画作成

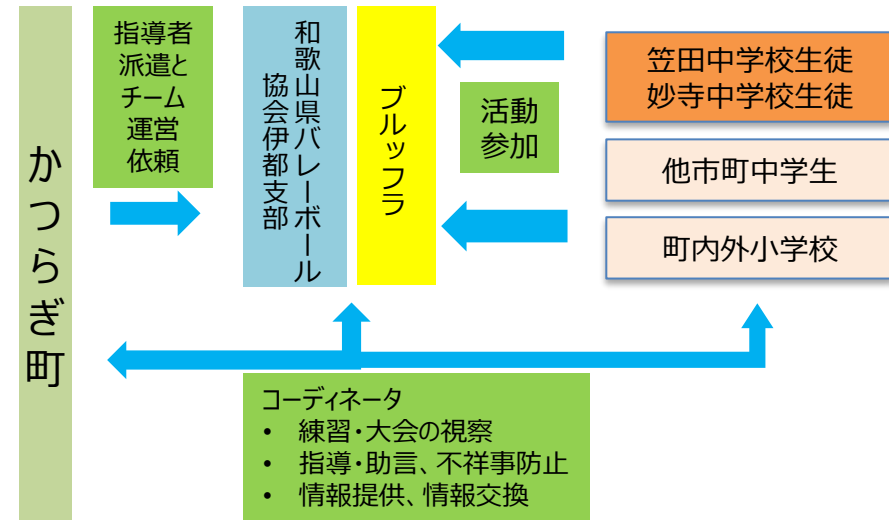
2.実証内容と成果

主な取組例

●ブルッフラ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	和歌山県バレーボール協会伊都支部
期間と日数	4月1日～3月31日 週4～5回程度
指導者の主な属性	兼業兼職の教員 兼業兼職の隣県教育委員会指導主事 大学生 高校生（クラブOG）
活動場所	妙寺中学校
主な移動手段	保護者送迎 自転車 徒歩 指導者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●自治体（地域部活動推進コーディネーター）

役割：統括責任者・指導者・保護者との連絡調整、意見交換、情報交換
指導者へのハラスメントや不祥事防止の啓発や指導
学校と教育委員会との連絡調整、指導者の確保

●統括責任者（和歌山県バレーボール協会伊都支部長）

役割：活動における管理者として、指導者への指導助言、町教委との連携

●主任指導者1名

役割：生徒への指導及び保護者・町教委との連携
指導者の役割分担、練習・指導計画作成

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ○関係団体との効果的な連携
- 中学校区でコーディネーターを配置し、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行う取組
- 地域学校協働活動推進員やPTA等との効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行う取組
- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備
- 地域クラブ活動の要件や基準等を明確化
- 地域クラブ活動の運営に関するマニュアルや手引き等を作成（検討中）
- 活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含む管理責任や賠償責任の主体の明確化

取組の成果

I「第1回かつらぎ町立中学校における部活動の地域移行に関する推進協議会」

- ・日 時：令和7年11月20日（木）
- ・出席者：委員13名、県教委関係者2名、町教委関係者8名

（1）指導者確保には至らなかったが、活動中の児童・生徒の安全確保のための「見守り隊」の設置の提案があり、具現化に向け前向きに協議中である。

（2）以下の「かつらぎ町認定地域クラブ要綱（案）」等について協議した。

かつらぎ町認定地域クラブ 要項（案）

（趣旨）

この要綱は、かつらぎ町立中学校における学校部活動に代わりうる活動として、スポーツ・文化芸術活動を実施する地域団体等の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（呼称）

上記趣旨に則り、かつらぎ町教育委員会が認定した地域団体等を「かつらぎ町認定地域クラブ」と呼ぶ。

（認定要件）

以下の全てに該当する地域団体等を「かつらぎ町認定地域クラブ」とする。

- 1 学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させた活動であり、生徒が身近な地域で希望する活動に主体的に参加できるようにすることで、豊かで幅広い活動機会の保証に寄与するものであること。
- 2 スポーツ庁・文化庁が定める「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン（令和4年12月、スポーツ庁・文化庁）」及び、「かつらぎ町学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン（令和6年4月）」に沿った活動が行われていること。
- 3 基本的に、現在笠田中学校と妙寺中学校それぞれの学校で活動が行われている部活、及び、過去に活動が行われていた部活を対象とする。また、一つの競技種目だけに専念するのではなく複数の競技種目に取り組むマルチスポーツや、一つのクラブにおける多様な文化芸術活動の実施、スポーツと文化芸術の融合等の多様な活動も対象とする。
- 4 活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な参加費等が設定されており、営利を目的とした運営でないこと。
- 5 持続可能なクラブの運営を目指し、適切な指導の実施体制が確保されていること。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- 適切な安全確保の体制が確立されており、また、怪我等に備えたスポーツ安全保険等に参加すること。
- 活動内容や活動実績等について、生徒の所属校と情報共有を行うなど、学校との連携が適切に行われていること。
- 以下の要件を参加者、保護者、指導者に明示しており、可能な限り規約（会則）を作成していること。

・活動の目的 ・指導者情報 ・会費等 ・活動場所
・活動時間、休養日 ・保険等 ・入退会の決まり

Ⅱ 常勤（1日6時間）のコーディネーターを配置し、次ページのような様々な業務をおこなった。

Ⅲ 運営団体に当たる「教育委員会教育総務課」は、主査であるコーディネーターのみならず、課長以下全職員の連携のもとで事業に取り組んだ。

Ⅳ 実施主体である「憩楽クラブかつらぎ」の理事にコーディネーターが就任し、実施主体内部から組織の体制整備に取り組んだ。

Ⅴ「第2回かつらぎ町立中学校における部活動の地域移行に関する推進協議会」（別紙、写真）

- ・日 時：令和8年3月11日（水）
- ・出席者：委員、県教委、町教委23名、地域クラブ生徒6名、保護者、指導者

(1) 県教育委員会担当指導主事から、今後の動きについて説明

- (2) 事務局から、アンケート結果について説明（別紙、アンケート結果）
- (3) 地域部活動参加の生徒・保護者・指導者との各委員との意見交換

○委員から生徒、保護者、指導者に出された質問

- ・学校の部活との違いは？ ・一番楽しかったことは？
- ・一番苦しかったことは？ ・苦労していることは？
- ・小学生の世話も行うか？ ・夜練習のデメリットは？
- ・保護者目線で、地域クラブはどのように感じているか？
- ・兼業兼職での指導での課題？
- ・今後地域部活は、地域の繋ぐ役割を果たせると思うか？

今後の取組における課題

- PTAとの連携については、アンケートへの協力やPTA会長の推進協議会への出席に留まり、今後はさらに連携を深める必要がある。
- 活動の運営に関するマニュアル作成には至らず、次年度以降の課題とする。
- 現在教育委員会が運営主体として行っている業務や会計処理等々の様々な業務を地域スポーツクラブに移行する時期やその方法についての課題。

課題への対応方針

- 関係団体とは、最大の課題である指導者確保や地域住民の事業への理解を深める点等で、今後もあらゆる機会を捉えて連携を深めてゆきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 年度当初の教育長、実施主体、地域人材、教育委員会事務局関係者、学校関係者によるミーティングの開催。
- 毎月の指導者への謝金・旅費の支払い、及び、消耗品購入・スポーツ
- 保険の加入等の事務処理全般。
- 実証事業に係る計画書や中間検査、報告書等の作成。
- 地域指導者を派遣している各中学校の部活を視察し、地域指導者や兼業兼職の教員、管理職と情報交換や意見交換を行うとともに、不祥事防止などの啓発や指導を行った。また、参加生徒に対しても体調確認やメンタル面の変化がないか等の観察と、必要に応じ保護者や生徒との面談を行った。ブルッラについても、夜間の練習を中心に視察し、また、保護者総会にも参加し保護者の声を吸い上げることに努めた。さらに、指導者と情報交換や意見交換を頻繁に行うとともに、不祥事防止の啓発を行った。
- 妙寺クラブについては、週3回のペースで視察するとともに、クラブの事務処理や大会参加手続、指導の補助を行った。
- 学校との生徒情報の共有や生徒指導上の情報交換。
- 学校への中体連大会や各種大会結果の報告。
- 実施主体である憩楽クラブ（総合型地域スポーツクラブ）、及び、和歌山県バレーボール協会伊都支部と指導日の日程調整や指導方針等について連絡・調整を行った。
- 中体連大会参加につき、県中体連事務局や伊都地方中体連会長、理事長との意見・情報交換。
- 中体連大会参加申し込み、及び、次年度の中体連登録手続き。
- スポーツ庁地域スポーツ課や県教委担当課との意見・情報交換。
- 国や県からの地域展開に係る各種調査への対応。
- 中体連大会、小体連大会、スポーツ少年団主催の各種大会の視察と関係者との意見・情報交換。
- 新たな地域クラブ設立に向け、関係者や保護者との意見・情報交換。
- 天候急変時の練習場所確保につき、関係機関との調整。
- 地域展開に係る研修会への出席や先進校視察。
- 県内外の自治体や教育委員会、中学校からの問合せや訪問対応。
- 地域クラブを休みがちになった生徒についての対応、学校を休みがちになった地域クラブの生徒の保護者からの相談対応。
- 地域移行に関する推進協議会の開催。
- 大学、高校との意見・情報交換
- 会計検査院検査に係る資料作成、及び、当日の検査対応。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 妙寺クラブ（陸上）では、右記のような「入部面談」票を元に、保護者・生徒（児童）と指導者とともにコーディネーターが面談を行った。これにより、参加者の日頃のスポーツ活動や疾病の有無、対人関係や家庭状況などを把握し、指導の参考とした。
- 校長会で、地域クラブ（妙寺クラブ、ブルッフラ）参加者名簿を提示し、各学校に周知するとともに、参加者について情報交換を行った。また、必要に応じてコーディネーターが学校を訪問し、管理職や担任、関係教員と情報交換を行い、個々の生徒（児童）の指導の留意点についてアドバイスを受けた。
- 保護者や参加者との連絡ツールについては、妙寺クラブ、ブルッフラともグループLINEを利用している。また、事故等が発生した場合は、基本的に指導者が応急処置や救急要請、保護者への連絡を行うこととしている。また、送迎や練習見学中の保護者（地域の繋がりから互いに顔見知りであることが大半）が、指導者の緊急対応の業務を補完している。

入部面談票

- ※ 部員急増のため、新しく入部した方を中心に保護者・お子様との簡単な面談を練習の合間や前後に行います。
- ※ 事前に以下の可能な部分（１～５など）に記入し、面談時にお渡しください。

1 小・中学校 年 氏名(フリガナ) 男・女

2 入部のきっかけ（紹介者や友達など）

3 普段の身体活動： 全く運動しない 時々運動する よく運動する

他の運動や習いごと等	月	火	水	木	金	土	日
競技（ ）							
競技（ ）							
習いごと							

4 練習参加手段： 保護者送迎 自転車 徒歩 その他（ ）

5 疾病の有無

6 指導するにあたり、保護者からお子様をみて、注意しておいた方がよいこと等

☐ 対人関係

☐ その他

面談日 年 月 日（ ）

面談者（ ）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 見守りなど活動をサポートする人材の活用（検討中）
- 人材バンクの設置または既存の人材バンクの活用（検討中）
- 体育・スポーツ協会への相談・連携
- 総合型地域スポーツクラブへの相談・連携
- 競技団体への相談・連携
- スポーツ少年団への相談・連携
- スポーツ推進委員への相談・連携
- 大学への相談・連携
- 地域関係者を通じた情報収集や募集
- 教員の兼職兼業に関する取組（説明会を実施、労務管理の工夫等）
- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格等の取得を促進
- 大学と連携した指導者研修プログラムの整備（検討中）
- 指導者を対象にした研修会の開催（検討中）
- 心身の健康管理、事故防止の徹底、暴力・ハラスメント根絶に関する取組
- 平日と休日の指導者間連携
- 学校と運営団体・実施主体間の連携

取組の成果

- 各種スポーツ団体や総合型スポーツクラブ（憩楽クラブ）、大学（和歌山大学、高野山大学、大阪大谷大学）には、機会をとらえて相談を行うとともに情報収集にあたった。
- 兼業兼職の意義については、学校の管理職を通じて各教員に浸透している。また、個人PCを通じて町内全教員の労務管理を行うなど、クラブ指導を含めた残業時間は徐々に減少傾向にある。
- 指導者の研修については、対象者が少ないため、コーディネーター（元校長）が各クラブを頻繁に視察・巡回するなかで指導を行った。今後は、小規模市町村での対象者の少なさや費用負担の課題を考慮すれば、県単位の研修会実施が適切であると考えられる。
- 現在2クラブでは平日と休日、全く同一の指導者が指導している。他の5クラブについても練習内容や生徒の情報等スムーズな連携が図られている。

今後の取組における課題

- 指導者資格取得については、予算措置による金銭的補助と資格取得に要する時間的な拘束や労力が課題である。また、中体連大会参加については、教員免許保持者を優遇するなど中体連の柔軟な対応も検討していただきたい。

課題への対応方針

- 最大の課題である指導者確保について、今後大学や地元高校（教員、高校生）との連携を進める。
- 見守り人材については、スポーツ推進委員から派遣の打診があり、今後取組を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- かつらぎ町スポーツ協会との連携
- かつらぎ町スポーツ少年団との連携
- かつらぎ町スポーツ推進委員会との連携
- 総合型地域スポーツクラブ憩楽クラブとの連携
- 和歌山県バレーボール協会伊都支部との連携
- 和歌山陸上競技協会との連携
- 国立大学法人和歌山大学との連携
- 高野山大学との連携
- 大阪大谷大学との連携

取組の成果

- 町スポーツ協会、町スポーツ少年団、町スポーツ推進委員会、総合型地域スポーツクラブからそれぞれ2名に「かつらぎ町立中学校における部活動の地域移行に関する推進委員会」委員を依頼した。そのなかで、町内の状況について情報提供や様々なアドバイスや意見をいただいた。
- スポーツ推進委員から見守り支援の申し出があった。
- 国立大学法人和歌山大学教育学部教授（体育）に、上記推進委員会会長を依頼し、スポーツや部活動に関する専門的な立場からアドバイスを受けるとともに、同委員会を円滑に運営いただいた。
- 高野山大学文学部教授に上記推進委員会委員を依頼し、主に文化部の地域展開について、意見やアドバイスをいただいた。
- 大阪大谷大学の地域展開担当教授から大阪南部地域の取組状況について情報提供いただくとともに、今後の連携について意見交換を行なった。

今後の取組における課題

- 最大の課題である指導者について、スポーツ協会、町スポーツ少年団、町スポーツ推進委員会ともにそれぞれの人脈を利用し確保に努めていただいているが、必要数の確保には至っていない。
- 企業への相談や連携は、現段階では行っていないが、地元にはスポーツ関係の有力企業があり資金援助などについても、来年度以降の課題としたい。
- 指導者確保について、地元大学や大阪府南部の大学との連携が拡大が課題である。

課題への対応方針

- ふるさと納税などの資金援助を含めた企業との連携は今後の課題であり、教育委員会のみならず、町長部局を含めた取組を模索したい。
- 地域クラブ参加生徒の移動手段として、スクールバスや本町独自の取組である「かつらぎ（デマンド乗合交通）」の活用を検討する。
- 指導者の確保について、地元の和歌山大学や高野山大学、大阪府南部の大阪体育大学や大阪大谷大学とのさらなる連携を模索するとともに、地元企業にも指導者派遣について働きかけを行なう。
- 来年度は町独自の「人材バンク」設立を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 伊都地方（かつらぎ町、橋本市、九度山町、高野町）において広域連携のための調整の場を設定（検討中）
- ブルッフラ（バレーボール）には、近隣市町（橋本市、九度山町、高野町）の中学生17名と小学生（男子5名、女子28名）が参加した。また、夏季休暇を利用し母親と日本に里帰りしたオーストラリア人中学生が複数回練習に参加し選手との交流を深め、来年も参加する予定である。（別紙、写真）
- 妙寺クラブ（陸上）には、近隣の橋本市からも15名の小学生が参加した。

取組の成果

- 県教委主催の地域連携に係る研修会で、2度担当者による情報交換を行った。
- 県教委主催のオンラインでの実証事業に参加する自治体担当者の情報交換を2度行った。
- 県内市町村教育長会議や地域の教育長会議にて、教育長レベルでの広域的な取組について協議を行った。

今後の取組における課題

- 生徒数が少ない本地域では、近隣市町で設置するクラブ（競技）の分散を行うことの必要性。
- 市町村により地域展開に係る進捗状況や考え方の大きな開き。（予算措置を行っているか否か。協議会を設置しているか否か。コーディネーターを配置しているか否か。）
- 平日の練習が夜になったり自宅から練習会場までかなりの距離がある生徒が多いなかで、送迎に係る保護者負担が多いこと。（特に女子生徒）

課題への対応方針

- 来年度本町が中心となり同じ地方の近隣市町（橋本市、九度山町、高野町）との担当者レベルの会合を模索している。会合では先ず本町の今までの取組を全てオープンにする予定である。また将来的にどの市町が何の競技を担当するか、予算面での負担割合、生徒の移動方法、指導者への謝金と旅費の額等々について統一的な方向性を見出したい。
- 県教委に対しても面的・広域的な取り組みに対して、もっとリーダーシップを発揮してくれるよう働きかけを行っていく。
- 引き続き、教育長レベルによる地域展開に関する協力体制づくりや意見・情報交換、県への働きかけを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

I 地域クラブ活動運営実績

- (1) 妙寺クラブ（陸上）
- (2) ブルッラ（バレーボール）
- (3) 妙寺中学校バスケットボール部
- (4) 今年度の地域人材による取組実績

II 今年度の事業計画書にて計画した内容

- ① 生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツに親しむ機会の確保
- ② 児童・生徒へのアンケート調査を実施
- ③ 生徒が地域スポーツクラブ活動の企画・運営に参画（検討中）
- ④ 複数の種目を実施できるよう、誰でも参加できる地域スポーツクラブ活動を実施（検討中）
- ⑤ シーズンによって多様な種目に取り組む地域スポーツクラブ活動を実施（検討中）
- ⑥ スポーツ活動と文化活動の両方に参加できる地域スポーツクラブ活動を実施（検討中）
- ⑦ 保護者が地域スポーツクラブ活動に参画
- ⑧ 誰もが楽しめるスポーツ体験教室等を実施
- ⑨ 大学生・高校生と連携した取組
- ⑩ ジュニアからシニアまでの多世代での取組

取組の成果

I 地域クラブ活動の成果

- (1) 妙寺クラブ（左記 II の事業計画書にて計画した内容の①⑦⑧⑨⑩を実施、※は計画以外で実施した内容）
 - ①⑧小学生は、志向や体力の状況に応じ「競技クラス」と「体力づくりクラス」に分けて活動した。そのなかで、中学生が「競技クラス」の小学生を指導し、小学生高学年と保護者が「体力づくりクラス」の活動の補助を行った。
 - ⑦ 送迎の保護者が中心となり、タイム測定や走路での安全確保など指導者の補助や見守り活動に参加している。
 - ⑦⑩保護者5名、一般成人1名が活動に参加した。
 - ⑦⑩11/24に開催された「紀の川万葉の里3時間リレーマラソン」に中学生、中学生親子、小学生親子で編成した2チーム（約20名）が参加し、地域のイベントを盛り上げた。（別紙、写真）
 - ⑨ 大学生（教育系在学、小学校教員希望、2回生）が、指導者に加わり、週3回の指導を行っている。
 - ⑩ 近隣の橋本市からも15名の小学生部員の加入があった。
※部員のうち9名が和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝代表選手に選出され活躍した。
※部員が「2025少年メッセージ伊都地方大会」に出場し、優秀賞を獲得、代表として県大会に出場し入賞を果たした。（別紙、作文）
※バレーボールチームとの合同練習を行った。（別紙、写真）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

(別紙、作文)
「諦めないこと」

和歌山県かつらぎ町立妙寺中学校 三年 ○○

「もっと走りたい、諦めたくない」私は二年前の春にこの思いを強く抱きました。あれから二年経ち、最終学年の今も仲間と共に走り続けています。私の二年前の思いが叶ったからです。

二年前、小学校の卒業式が近づくにつれ二つの思いをもつようになりました。一つは、中学生になったらいろんなことに挑戦し、たくさんのことを学びたいという希望に満ちた思いです。一方、部活動に対して、「やってみたい部活動がない。どうしよう。」と不安になる思いもありました。私は「走ること」が好きだったので部活動は「陸上部」に入部したいと思っていました。でも、私の入学する中学校には「陸上部」はありませんでした。つまり私の「もっと走りたい」という思いを諦めなければならないということでした。何だかモヤモヤとした気持ちで小学校を卒業しました。そして、いよいよ中学校の入学式を迎えました。来賓の方からのお祝いの言葉を聞いていると、話の中に「勉強、部活動を頑張ってください」という内容の言葉がありました。私は、「陸上部がないのに、いったい何を頑張れというのだ。」と投げやりにも似た気持ちにもなりましたが、ふとある考えが思いついたのです。「そうだ、陸上部がないなら作ればいいんだ！」やっぱり私は走ることを諦められませんでした。

家に帰るとすぐに、私は双子の弟に、この思いを伝えました。不思議と同じ気持ちだったことを知り、お互い驚きました。そして、この瞬間からモヤモヤとした気持ちがなくなり、中学校生活への夢が大きく膨らみ始めました。

弟と話し合い、担任の先生に「陸上部を作りたい、走りたい」と伝えようとした日の朝、ジュニア駅伝と一緒に練習した仲間から「陸上したいから先生に言おうと思うんだけど」と声をかけられました。二度目の驚きでした。心が弾むとはこのことか！と思いながら私たちは興奮気味に先生に伝えま

した。すると、私たち三人の思いは、先生から校長先生に、校長先生から教育委員会へと伝わり、ついにかつらぎ町が地域移行を進めている部活動の一つとして「陸上部」を作ってくれることになったのです。「もっと走りたい、諦めたくない」この私の思いがついに叶ったのです。

創部が決まり、指導してくださる先生に、三人で挨拶に行きました。そして、「私たちの夢を叶えてくださってありがとうございます。頑張ります。」と挨拶すると、「夢が叶うのはこれからだ。」と笑顔でおっしゃいました。私は正直どういう意味だろうと思っていました。数日後に保護者も交えての顔合わせのとき、先生が「三人と、全国の舞台を見てみたいと思います。」と話してくださいました。あのときの言葉の意味がやっと理解できました。「全国？私たちが？」と、一瞬驚きましたが、こんな言葉をかけてくれる先生のもとで「全国という舞台に三人で行きたい！」と思うようになりました。

あれから二年の月日が経ちました。三人からはじまった陸上部は、小学生の仲間も増え、四十三名の「陸上部」になりました。私はキャプテンとしてみんなの前で体操をします。私が「一・二・三・四」と号令をかけると「五・六・七・八」と元気な声が返ってきます。仲間と共に走れる喜びを感じる瞬間です。私はこの瞬間があることに感謝し、今を「走りたい」です。私はこの諦めない経験が「自信」になりました。だから、もう無理だと思って諦めようとしている人たちに伝えたい。「諦めないことの積み重ねが自信になり、今までの頑張りが実を結ぶ日がきつとくる！」

そして、私はこれからも「諦めない！」そう心に誓い、この先も仲間と一緒に走り続けていきます。

※少年メッセージ2025伊都地方大会優秀賞、県大会入賞

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

(2) ブルッフラ（前頁Ⅱの事業計画書にて計画した内容の⑦⑨⑩を実施
※は計画以外で実施した内容）

- ⑦ 保護者が練習会場の体育館の解錠・施錠の補助を行うとともに、練習時の安全確保のための見守り活動、練習試合や大会参加時の送迎を行っている。
- ⑨ 本町に加え、近隣市町（橋本市、九度山町、高野町）の中学生17名と小学生（男子5名、女子28名）が参加した。夏季休暇を利用し母親と日本に里帰りしたオーストラリア人中学生が複数回練習に参加し選手との交流を深め、来年も参加する予定である。（別紙、写真）
- ⑩ クラブOGの高校生が審判資格を取得するとともに、週3回程度の割合で部員の指導に加わっている。また、監督の教え子の大学生も指導を行っている。
※隣県（奈良県五條市）の指導主事が、兼業兼職で指導を行っている。
※妙寺クラブ（陸上）と合同練習を行った。（別紙、写真）
※11/24に開催された「紀の川万葉の里マラソン」に参加し、地域のイベントを盛り上げた。（別紙、写真）
※地域のボランティア活動に参加し、高齢者と交流した。
（以下、「2026年 福祉かつらぎ 2月号」より抜粋）

ちょっとサポートボランティア

地域クラブ「BRUJULA（ブルッフラ）」が大活躍

ちょっとサポート事業は、公的なサービスでは手が届かないちょっとした困りごとを、地域のみんなで助け合いながら解決していく取り組みです。

今回、かつらぎ町が地域連携の部活動として認定しているバレーボールクラブBRUJULA（ブルッフラ）から5名の中学生と指導者の森下先生が、7年間活動している中澤浩二さんと一緒に初めてちょっとサポートボランティアに取り組みしたので紹介します。

相談者の方は、片手に杖をつき「自分ではどうすることもできない」と困っていました。草が腰の高さまで伸びきった庭に中学生たちの活気が吹き込まれました。

中澤さんが、草刈り機で刈り取った草を、中学生たちが次々と抱えて運び出します。「こっち運ぶよ！」「次、これいくよ！」と声を掛け合いながら動く姿は、まさにバレーボールで培った抜群のチームプレー。あっという間に、見違えるほどスッキリした美しい庭に生まれ変わりました。

きれいになったお庭を見て、相談者さんは「本当によかったよ。ありがとう。」と大変喜ばれました。

中学生たちの明るい会話や笑顔いっぱいの活動は、相談者さんや中澤さんもたくさん元気をもらった温かい時間となりました。

引率した森下先生からは、「地域の方々に支えられているチームですので、少しでも地域のみなさんに恩返しができればと考え参加させていただきました。『地域に学ぶ・地域で育つ』、大変良い体験となりました。今後も続けていきたいです。」とお言葉をいただき、世代を超えて心が通じ合う温かい活動となりました。

【中学生の声】

- ・終わった後“スッキリ”しました♪あまり好きじゃない掃除が克服できました。
- ・『ありがとうね』と言われた時すごく嬉しかったです。
- ・困っている人がいたら助けたいという気持ちが更に増す経験になりました。
- ・私たちがしたことが、人の役に立ったということが嬉しかったです。
- ・誰かが喜ぶことをすると相手も自分もよい気持ちになれるので、この活動ができてよかったです。

(3) 妙寺中学校バスケットボール部

- 今年度かつらぎ町に「拠点校方式」を導入
- 妙寺中学校バスケットボール部が笠田中学校生徒を受け入れ
- バスケットボール部を地域指導者と教員が一緒に指導

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

(4) 今年度の地域人材による取組実績

No	チーム（学校）	競 技	指導者名	指導者の属性	指導回数	指導時間
1	妙寺クラブ、笠田中学校	陸上	N	地域指導者（元中学教員）	138	387
2	妙寺クラブ、笠田中学校	陸上	K	地域指導者（大学生）	45	108
3	ブルッフ	バレーボール	M	兼業兼職（教員）	76	275
4	ブルッフ	バレーボール	T	兼業兼職（奈良県指導主事）	53	233
5	ブルッフ	バレーボール	T	地域指導者（大学生）	61	140
6	ブルッフ	バレーボール	T	地域指導者（高校生）	97	182
7	笠田中学校、妙寺中学校	卓球	Y	地域指導者（会社員）	59	165
8	笠田中学校	卓球	M	兼業兼職（教員）	28	84
9	笠田中学校	卓球	H	兼業兼職（教員）	1	3
10	妙寺中学校	卓球	N	兼業兼職（教員）	25	69
11	妙寺中学校	バレーボール	T	地域指導者（元高校教員）	14	50
12	妙寺中学校	バレーボール	N	兼業兼職（教員）	15	42
13	妙寺中学校	バスケットボール	M	地域指導者（自営）	77	168
14	妙寺中学校	バスケットボール	W	兼業兼職（教員）	28	76
15	妙寺中学校	バスケットボール	N	兼業兼職（教員）	9	29
計		令和7年度（4月～12月）			726	2011
		令和6年度（4月～12月）			447	1489
		令和5年度（4月～12月）			249	777

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 参加費等の一部又は全部を減免（検討中）
- 会費の適切な設定・徴収方法の検討（検討中）
- 受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めた収支構造の検討（検討中）
- 保護者等の関係者へ受益者負担の説明
- 協賛制度の活用（検討中）

取組の成果

- 国の実証事業と本町で地域展開推進に向けて予算措置を行っている関係で、現在、ブルッフラ（「バレーボール」）では、保険料以外に月あたり1,000円の参加費を徴収している。妙寺クラブ（「陸上」）では、保険料以外の参加費は徴収していない。
- 保険料以外の会費を徴収していない妙寺クラブ（「陸上」）においても会費の必要性を強く感じている保護者の多いことが、日頃の保護者との会話のなかでうかがえるようになってきた。
- 推進協議会において、受益者負担に関する小学生・中学生保護者へのアンケート結果を基に検討をおこなった。適切な会費の額についての結論には至らなかったが、大半の委員は会費徴収の必要性を感じている。

今後の取組における課題

- 国や県の補助（特に指導者謝金と旅費）について、将来的な見通しが現段階で明確でないこと。
- 会費の使い道のうち、指導者謝金は同額にすることは可能であるが、競技により消耗品や備品の価格に価格の違いがあり、会費（参加者負担）を統一することは難しい。
- アンケートからも読み取れるが、受益者負担についての保護者を中心とした関係者の理解と協力が課題である。

課題への対応方針

- 参加費を徴収していない妙寺クラブ（陸上）については、来年度以降徴収することを検討する。
- 妙寺クラブ（陸上）、ブルッフラ（「バレーボール」）ともに小学生部員が多数加入しており、部費額については、小学生と中学生で差をつける方向で検討する。
- 受益者負担と公的資金とのバランスについては、町の財政当局との協議を継続する。
- 困窮家庭への援助については、本町教育委員会の規定を準用予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 学校の施設・設備・備品等の利用ルールの設定

取組の成果

- 当初から地域移行したクラブの学校や町施設の使用料は、ナイター設備を含めて免除する規定となっている。
- 妙寺クラブ（陸上）は、活動を笠田中学校と業務委託を行っているかつらぎ公園グラウンドで行い使用料は発生しなかった。
- ブルッフラ（バレーボール）についても、活動のほとんどを妙寺中学校で行い、使用料は発生しなかった。また、体育館の空調工事中の1月後半以降は、町内の県立高校に町から使用の依頼を行い、結果、使用料は免除を受けた。

今後の取組における課題

- 今後、使用団体が増えた場合の対応

課題への対応方針

- 来年度以降体育館やグラウンドなどの町のスポーツ施設が指定管理者制度導入予定であり、学校施設と同等条件での利用が可能になるよう関係者との協議の必要がある。

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 平日の学校部活動の地域クラブ活動への移行の実施

取組の成果

- 平日の活動（回数、指導時間）

- ・ 妙寺クラブ（陸上）：のべ118回、277時間（指導者2名）
- ・ ブルッフラ（バレーボール）：のべ227回、556時間（指導者4名）
- ・ バスケット（妙寺中学）：66回、151時間（指導者1名）
- ・ 卓球（笠田中学）：27回、40時間（指導者1名）
- ・ 卓球（妙寺中学）：5回、11時間（指導者1名）
- ・ バレーボール（妙寺中学）：0回
- ・ 陸上（妙寺中学）：0回

今後の取組における課題

- 平日夜練習実施のクラブの選手や保護者からは、練習後の夜遅い時間の夕食となるため、生徒や保護者から「生活が夜型になる」、「家族とゆっくり夕食が取れない」、「仕事後の送迎や仕事を早く抜けての送迎がたいへんだった」との声があった。
- 当日の学校の行事等の終了時刻が急に伸び、指導者への連絡が遅れた場合、練習開始時刻の急な変更や中止があった。
- 平日の指導者の確保

課題への対応方針

- 夜練習を可能な限りの早い時間帯への変更を目指す。（主に指導者との時間調整と施設使用の調整）

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 地域指導者の年間指導回数・指導時間は、別表の通り毎年増加している。（12月末現在、令和7年度726回・2011時間、6年度447回・1489時間、5年度249回・777時間）
- 推進協議会は2回開催し、第1回は、「かつらぎ町認定地域クラブ要綱」を審議した。また第2回は、地域クラブ参加の生徒、保護者、指導者を招き各委員と協議を行った。
- コーディネーターは、1日6時間に加え、休日や夜間の練習や大会を頻繁に視察し、指導者や生徒、保護者、他の関係者等と頻繁に意見・情報交換を行うとともに指導者の不祥事防止や円滑な地域クラブ運営に貢献した。
- 妙寺クラブ（陸上）とブルッフラ（バレーボール）においては、多世代（小学生から成人）の参加があり、また、中学生がリトルティーチャーとして小学生の指導を行った。
- 保護者が活動に参加し、練習のみならず地域のスポーツ大会に子供とともに参加した。また、送迎や練習時の見守り活動にとどまらず、大会運営の役員や補助を務めた。
- 拠点校方式を導入し、笠田中学校生徒が妙寺中学校バスケボール部の活動に参加した。
- 参加者費用負担については、ブルッフラ（バレーボール）の年間一人当たり1,000円のみで、他は徴収しなかった。

●成果の評価

- 当初の指導時間目標の年間4,000時間には及ばず、最終年度末には2,500時間程度になる見込みである。これは、指導者の確保が進まなかったことが大きな原因であると考えられる。そのようななかで、バレーボールの指導に当該クラブのOGの高校生（審判資格済み）が、また、陸上に教員志望の大学生が新たに加わった。また、バスケットボールにおいても新たな専門指導者が兼業兼職の教員と連携し指導を行っている。
- 推進協議会に地域クラブ参加者（特に生徒）を招いたことは大きな成果であり、関係者は地域クラブの必要性や今後の課題を実感できたと好評であった。
- 拠点校方式は、移行の前段階として、「生徒に活動の場を増やす」という意味で有効であった。
- 小学生の活動参加は、課題の一つである部員不足が今後も続くなかで有益である。
- 参加者費用負担については、アンケート結果からも都心部に比べ理解を得にくい状況である。

●今後に向けて

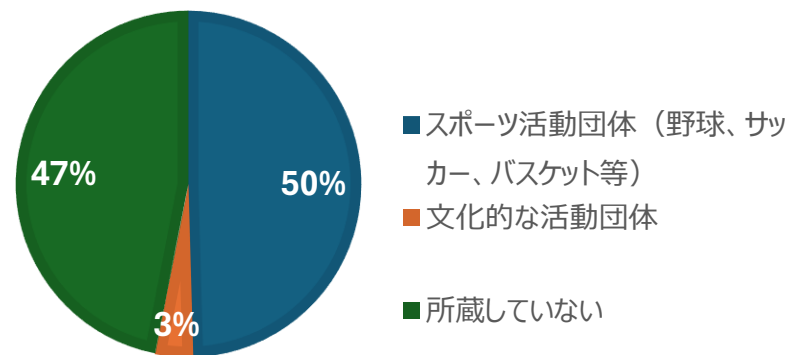
- 最大の課題である指導者の確保については、引き続き地域の様々なネットワークを駆使し人材の発掘を図る。加えて、県が当初から掲げている人材バンクの設立についても、これに期待をしたい。
- 近隣市町との連携については、取組に対する考え方や進捗状況に差があることが大きな課題であるが、まずは、担当者レベルの情報交換や意見交換を足掛かりとして、これを進めたいと考えている。予算面や具体的に連携を行う場合の各市町の負担割合など課題は多いが、広域展開は必須であるとする。この点でも県レベルの強力なリーダーシップの発揮を望む。
- 参加者費用負担について、保護者を中心とした関係者に丁寧に説明を行うなど理解を得ることに努めるとともに、国や県への予算措置の継続や増加の働きかけを進めていく。
- 地域クラブ活動を通じ生徒が自主的に活動する場面を模索し提供する。

2.実証内容と成果②

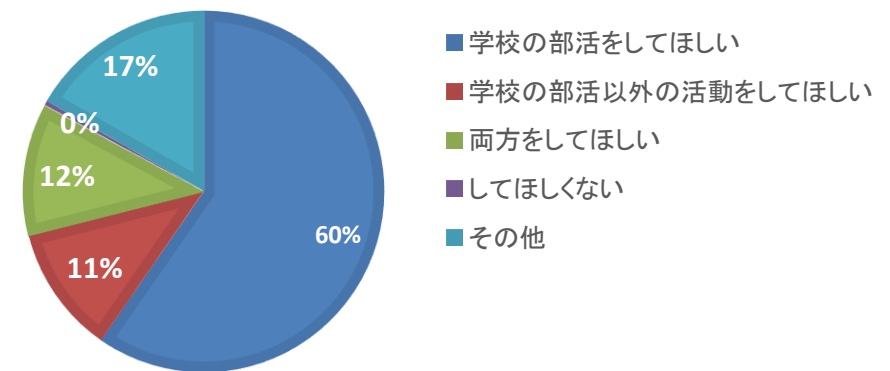
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（小学生保護者対象）

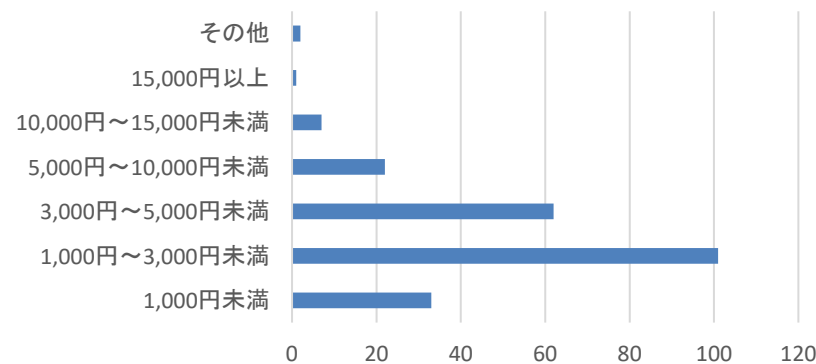
お子さまが参加している地域活動



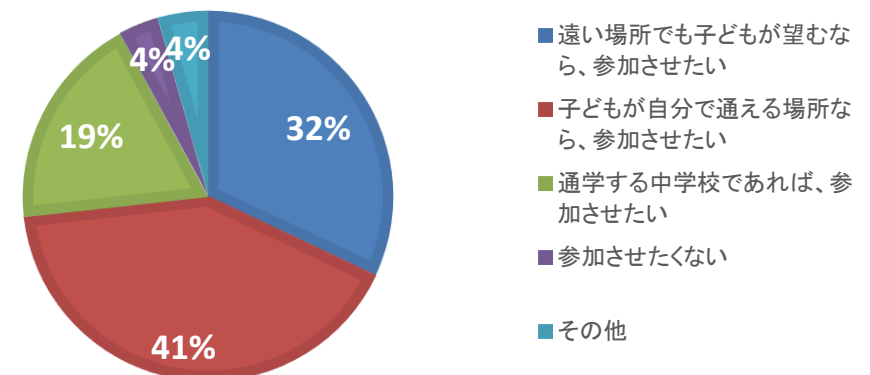
中学校でやってほしい活動



家庭が負担する地域クラブ 1 か月あたりの適切な活動費



中学校の部活が学校単位でなくなった場合、お子さまを地域のスポーツ・文化活動に参加させたいですか

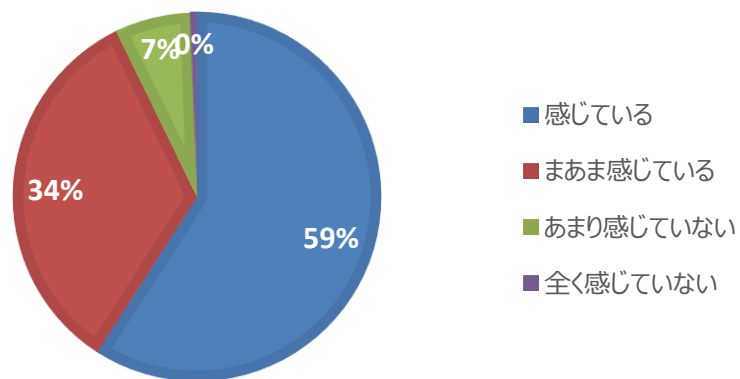


2.実証内容と成果②

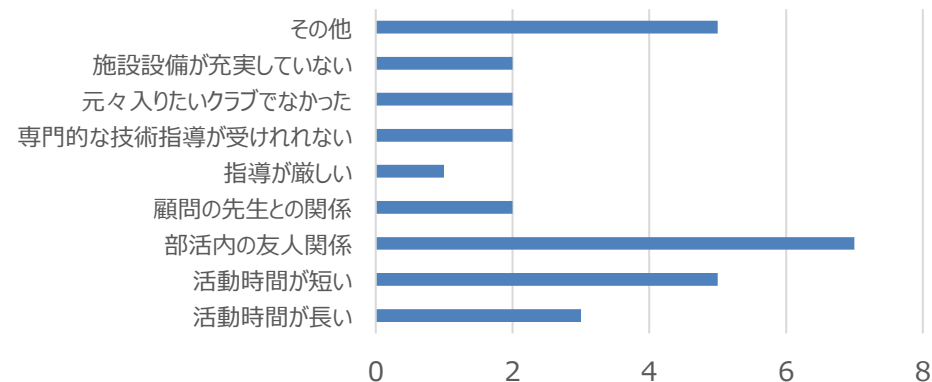
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（中学生対象）

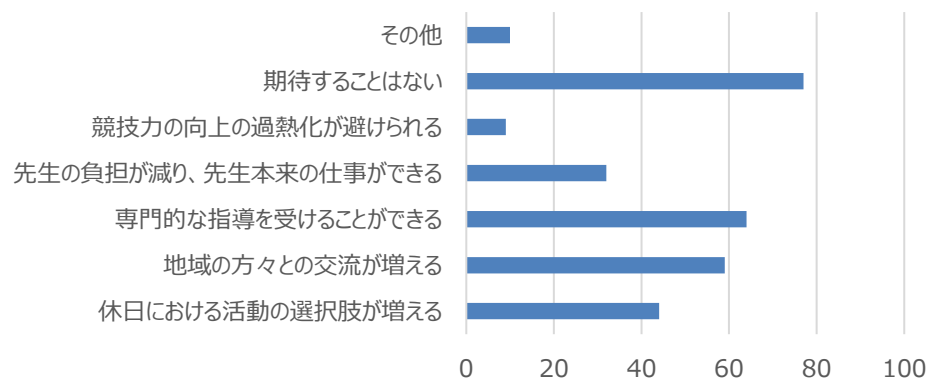
現在所属している部活に満足感を感じていますか



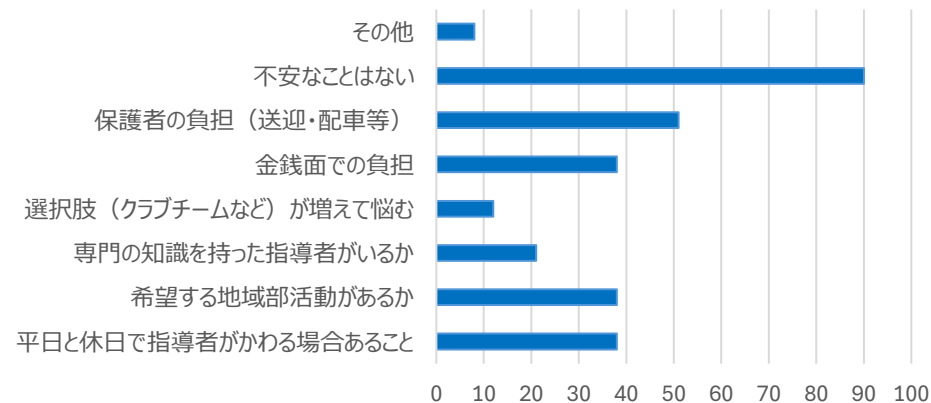
満足を感じていない理由は何ですか



部活動の地域展開に期待すること



部活動の地域展開についての不安（課題）

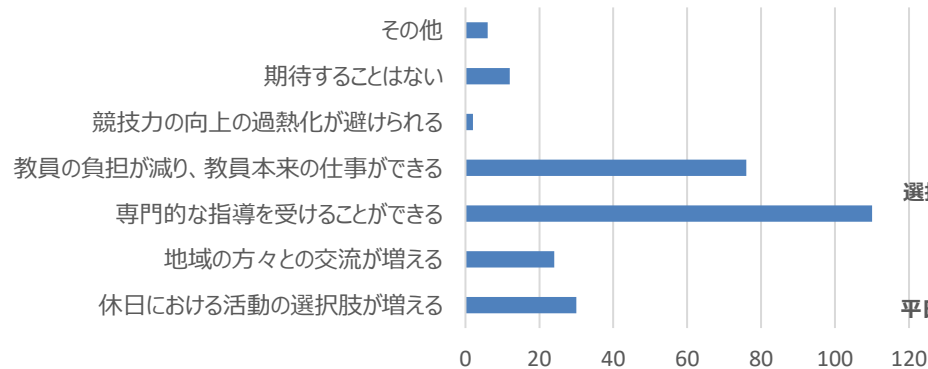


2.実証内容と成果②

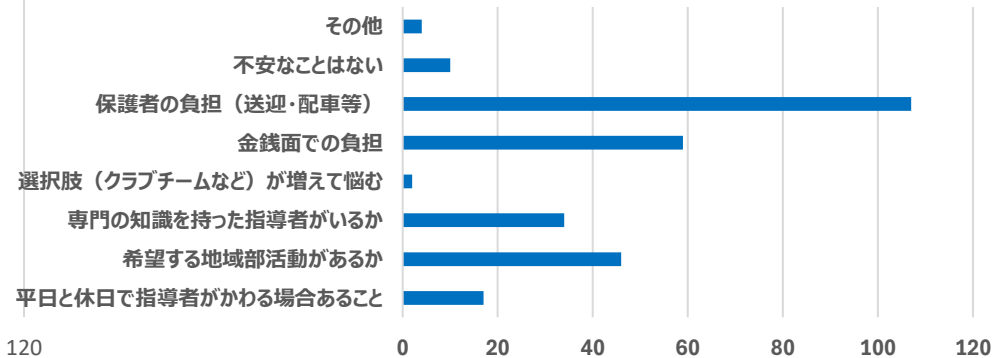
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（中学生保護者対象）

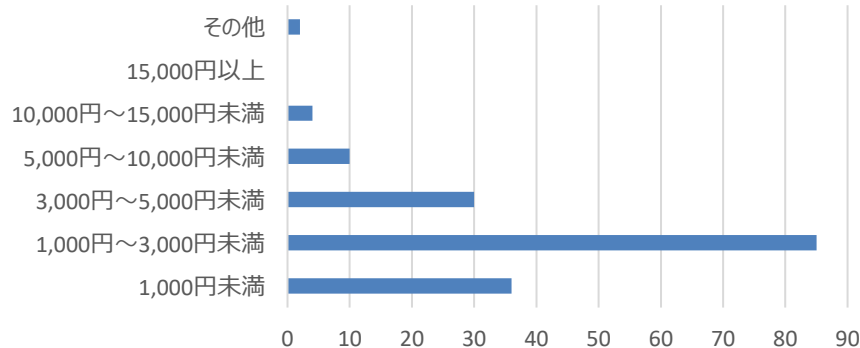
部活動の地域展開に期待すること



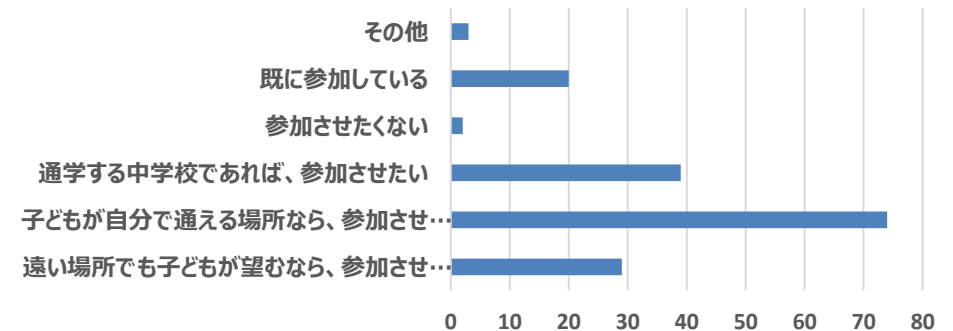
部活動の地域展開についての不安（課題）



家庭が負担する地域クラブ 1 か月あたりの適切な活動費



中学校の部活動が学校単位でなくなった場合、お子さまを地域のスポーツ・文化活動に参加させたいですか



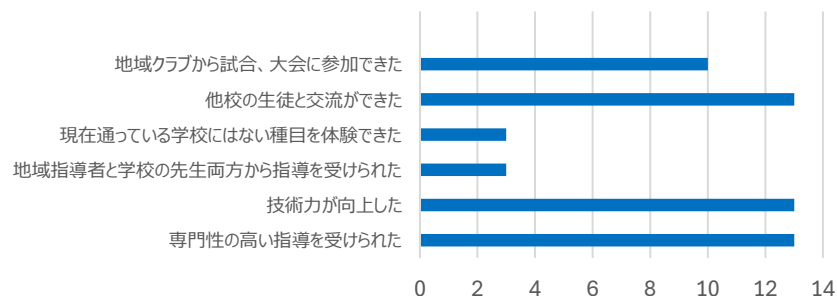
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

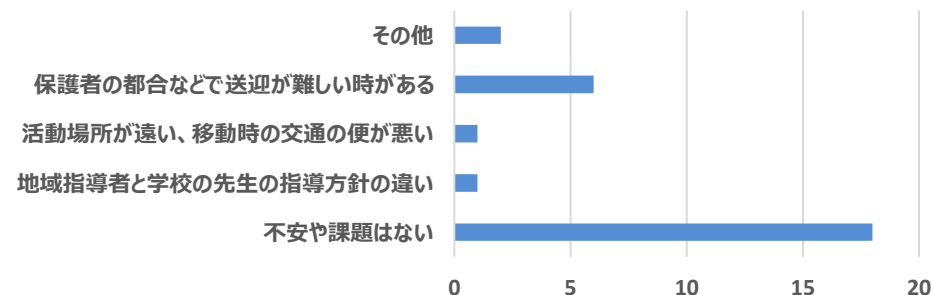
(地域クラブ参加の生徒対象)

地域部活動に参加して良かったこと



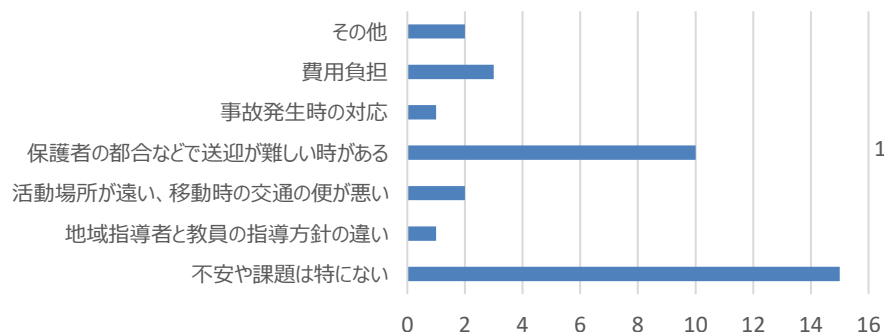
(地域クラブ参加の生徒対象)

指導を受けていて不安や課題に感じること



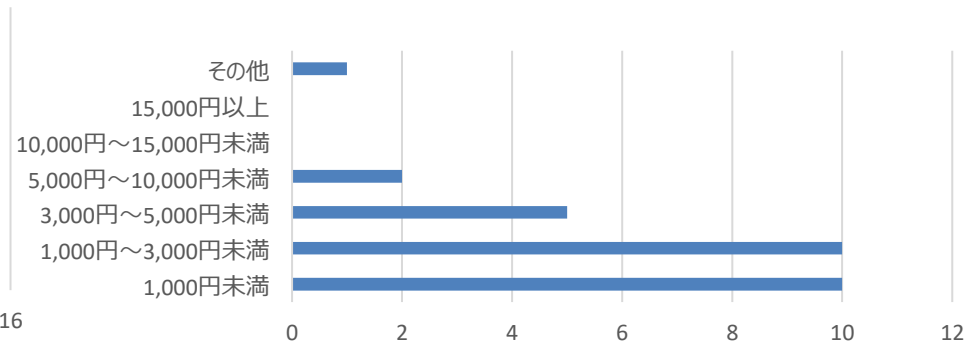
(地域クラブ参加生徒の保護者対象)

指導を受けて不安や課題に感じること



(地域クラブ参加生徒の保護者対象)

家庭が負担する地域クラブ 1 か月あたりの適切な活動費



アンケート結果・参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声

小学生保護者

- かつらぎ町外での部活動も同じように扱ってくれるのか気になっています。同じにしてほしいと要望します。
- 人見知りなほうなので、なじめるか、自分の意見をいえるか心配
- 山間部なのでバスをだしてもらえたらありがたいです。
- 値段や希望など書いたが、子どもが頑張ることができるならどこでも行かせたいと思う。ただ中学校の部活動を地域委託した場合、他のクラブチームに所属している子との差(例えば学校の部活動は公欠などで行くが、外部ではそうでない等)が生じるのはやめてほしいと思う。中途半端に学校の先生が携わるのではなく、全部任せて場所だけ学校が貸し出し、他の外部のクラブチームなどと同じ扱いでいいと思う。
- 地域移行に特に不安はありません。学校の先生の負担も軽くなれば良いと考えています
- かつらぎ町のような施設の少ない地域で外部委託を取り入れることが現実的なのかどうか。学校の先生方の負担を減らしたいと思うが、人のいない、場所のないこの町で子どもの選択肢をいかに減らさずにスポーツや文化的活動を子どもたちに経験させるか考えていただきたい。
- 地域移行について、何度かアンケートに答えたり、何年も前から話は聞いていますが、一向に実現する話は聞こえてきません。少年スポーツチームで頑張っている、中学校にはそのクラブがないので、遠くのクラブチームなどに所属せざるを得ないというような状況が何年も続いています。アンケートに答えても全く意味が無いのでは？と感じています。
- 共働きで仕事をしている家庭は、中学校以外の部活動になると送迎が難しい。近くに行きたいところがないとなるとさらに送迎が難しいため、通学バスなど必要な生徒もでてくると思います。
- 6年生の子供はやりたいクラブが校区内の中学校にないのでやりがいのあるクラブ活動を行いたい理由で私立受験を選びました。クラブ活動を理由に校区外入学できるなら現状のままでよいと思います。
- 学校教員の負担になるようなら地域移行になる事は致し方ないと思う。学校以外の場所で部活動をする場合、自分で行ける範囲であれば良いが、親の送迎が必要なら不安である。
- 今までも他校との合同で活動されていますが、出来るだけ近隣の学校と合同にしてほしいです。(出来るだけ子供たちが自転車などで通いやすいように) 土日に1日練習をしてほしいです。
- 送迎等、保護者にしわ寄せがくるのではないかと不安が大きい。
- 送迎バスを町から出すことをお願いしたい。
- 中学校に入学して自分がしたい部活動があれば入部し、なければ部活動はしなくて良いと思います。選べる選択肢も少ないと聞きますし、強制はするべきではないと考えます。

アンケート結果・参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声

小学生保護者

- 学校にしたい部活がないなら入らなくて良いと思います。基本的には、子供のしたい事をさせてあげたいので、学校の部活に入りたければ入り、学校外の習い事の方が良ければそちらを、本人のしたいことを自由にさせてあげたい。
- 手厚い活動を望んだ場合や参加人数が増えた場合、専門の知識を持ってサポートしてくれる複数人の指導者の確保が必要になってくると思います。活発な指導を望む場合は、謝金などにあてるため、月謝の負担はある程度必要になってくると思います。
- クラブのお手伝いの内容を、入部の時点で分かりやすく規約のようなものに示し、当番制で全ての子ども、全ての保護者にお願いしておくなど、一部の人の負担が掛かりすぎないように、指導者、子ども、保護者みんなの協力が必要になると思います。
- 中学校で、先生以外が教える。他の場所ではなく、中学校で活動してもらいたい。
- かつらぎ町の中学校だけが、中体連の水泳大会に参加できない。岩出市や高野町では、水泳部がなくても、学校が引率者をつけてくれて、県の中体連の大会に参加している。かつらぎ町でもそうしてほしい。
- 中学校の部活動の種類で選択肢が少ないのに全員部活に入らないといけないのは、悩ましいので、地域活動や習い事もオッケーにしてはどうでしょうか。子供は、水泳をやりたいので、外部に行くことを考えています。
- 外部のクラブに入るか、中学校でやるか迷っています。決める時期が野球であればもう年末・年明けに外部の体験練習が始まりますし、中学校であればどんな体制でいくのか2月には整えてもらえたら、どちらにするか行き先を決めやすいのですが…今の中学校では土日に練習がまともにないと聞いて、それが不安です。
- 学校の部活動の数が減り、入りたくても入りたいクラブがなく、学校でやりたくてもあるものの中で選択するしかない状況です。地域移行中であることは理解できますが、中学校を背負って自分の力をだし部活に励みたい子もいます。クラブ数を増やして、外部の指導者に中学校もしくは、校区内の場所に来てもらう形で進めてはどうかと思います。子どもたちが自分で通える学校なら保護者の送迎の負担も減り自立にもつながると思います。
- サッカーや野球などスポーツ競技にばかり目が行きがちであるので、子ども会活動や吹奏楽、など選択肢をもっと知る機会を与えて欲しい。
- 学校の部活動でも地域の指導者でも丁寧に指導してくれるのであれば、どちらでも構わない。ただ、先生の負担が大きすぎるとは思っていた。地域連携で指導者が見つかるなら積極的に進めてもいいと思う
- ちょうど子供が剣道を習っており、中学になったときの学校の部活との兼ね合いはどうしたらいいのか迷っていました。もちろん中学の部活も友達関係など得ることはたくさんあり重要なのですが、他にスポーツをすでに習っている場合は無理にしなくてもいいのではないかと、とも思っています。（今は違うのかもかもしれませんが、自分たちの時代は強制入部だったので）
- 放課後の部活動の活動場所への移動に保護者の参加が必須になるのかどうか。必須の場合は保護者への負担が大きすぎる。
- 決定事項をおろす時は、数年の経過措置を設けて欲しい。急に決定事項をおろされて悩む子供達の気持ちも、考慮して欲しいです。

アンケート結果・参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声

中学生保護者

- 共働きのため、送迎のことがとても気になります。送迎が困難なことが理由で、子どもが希望する部活ができないなど支障が出ないか心配です。部活先までの時間が短時間の子と長時間の子で、放課後の過ごし方がかわり、学習面に差がでないかも心配です。
- 部活動とクラブチームどちらかに決めるのではなく、両立！の選択肢も作って欲しい。
- 保護者の仕事の有無や勤務形態によって、子どもが部活動に参加できなくなる、いわゆる格差が生まれてくると思う。
- 地域移行することで、平日放課後の練習時間が少なくなる、地域のクラブに気軽に入れない子供たちがスポーツをする機会を失ったり、居場所がなくなる。
- 部活かクラブチームか選ばなければいけないことで、人数が足りず試合ができなくなったり、人数が集まらないことでそのスポーツができなくなったりするかもしれない。また、地域全体でのチーム数が減るため大会の張り合いがなくなる。
- 決定事項をおろす時は、数年の経過措置を設けて欲しい。急に決定事項をおろされて悩む子供達の気持ちも、考慮して欲しいです。
- 夜間に活動をしていると、どうしても生活リズムに影響が出てしまう。
- 保護者当番や送迎人を乗せたりは土曜日は仕事ある為 当番制は困る。
- 従来の教師の「ただ働き（どこか持ち出し）」によって成り立っている部活動には大きな疑問を感じています。一方、地域移行により、保護者負担が発生するせいで、参加したいのに参加できない子どもが出てきてしまうことを最も懸念します。
- スポーツ選手として、一番大事な挨拶・礼儀の指導をしっかりして頂けると嬉しいです。子供が楽しく部活動ができているなと感じているなら、何も文句はありません。
- 通学する中学校以外でのクラブ活動の場合、道中で事故等にあったり、体調を崩したりしないか不安が大きい。
- 通っている中学校に入部したい部活がなく、隣の中学校が拠点校となっていたので、そちらの方で部活動に参加しています。
- 移行が既に始まっている地域の保護者さんとお話する機会がありましたが、保護者の負担と金銭面での負担が増えて大変だとお伺いしました。その点をクリア出来るのであれば先生方の負担も減って良い案だと思います。
- 専門知識を持たない教員が指導するよりも、その道の経験者に師事した方が効率も良いし、教員の負担も減るので良いとは思いますが、その反面、子ども達との関係性が希薄になることにより細やかなケアが行き届かなくなるのではないかと危惧している。一人ひとりに責任を持って接してくれるのであれば賛成するが、生徒に対する教師ほどの責任感を期待はしにくいのではないかと思います。
- 学校教員が部活動による負担があるなら地域移行は致し方ないと思うが、学校から離れた場所で部活動になると、放課後の送迎ができない家庭は参加できないと言う不安がある。
- 各スポーツに興味があって、意識の高い子や親はすでに小学校からスポーツを始めている。中学校から部活動を取ったらモチベーションの低い子たちは何もしないまま大人になる。スポーツクラブのない田舎は不利。
- 部活を通しての学校での友人作りがしにくくなるのではないかと不安があります。

アンケート結果・参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声

中学生

- 今中学校にある部活以外で、やってみたいと思う、または、やってみたいと思った部活動があれば教えてください。
 - ・バドミントン（23）
 - ・ダンス（8）
 - ・サッカー（7）
 - ・男子バレーボール（5）
 - ・女子卓球（2）
- 「部活動の地域移行」とその内容について、聞いたことがありますか。
 - ・聞いたことがあるし、内容についても知っている。 10%
 - ・聞いたことはあるが、内容についてはよく知らない。 42%
 - ・聞いたことがない（このアンケートがはじめて） 49%
- 部活動の地域移行に期待することは何ですか。
 - ・専門知識を持った指導者の指導を受けることができる。
 - ・地域の方々と交流ができる。
 - ・休日における活動の選択肢が増える。
 - ・先生の負担が減り、先生が本来の仕事に専念できる
- 部活動の地域移行に対する「不安（課題）」について、思うことは何ですか。
 - ・保護者の負担（送迎等）
 - ・金銭面での負担。
 - ・平日と休日で指導者がかわる場合があること。
 - ・希望する地域活動があるか。

中学校教員

- 教員の長時間労働の解消、働き方改革として、推進してほしいと思っています。

地域指導者と一緒に指導する教員

- 放課後、教師がコーチと一緒につく状況から、できるだけコーチに任せていけるようになればいいと思いました。
- 個人的なLINE等ではなく、連絡ツールや連絡手段があったほうが連絡ミスや漏れがないように感じます。
- コーチは別の本職があるので、大会等で来てもらうのに気を遣う。コーチにとって負担が大きい。
- 指導を常に任せておけるわけではない。完全に任せられる場面が増えたら負担が減る。
- コーチが来てくれる日が減ったので、一人でやるのとあまり変わらない。
- 年度ごとに、どういう体制でどれくらいコーチが来てくれるかが変わり、また、それが決まるのが遅いので、やりにくい。早く決められるとありがたい。

地域クラブに参加する中学生の保護者

- 保護者の送迎の負担解消のため、遠征時のときなどに手配できるバスや大型車があれば大変助かります。地区全体のクラブチームで共有できる仕様にすれば費用も多少は抑えられるのではないかと思います。
- いつも熱心な指導・教育ありがとうございます。練習するにつれしっかりと成長が見えるので親としてもとても頼もしいです。
- クラブ活動において、自費で活動状況を移行させることに理解していない立場です。本来、義務教育における教育活動は、公金で行われるものではないでしょうか？部活動の担当として教員の負担になることは考えるべきですが、そのしわ寄せ（費用、送り迎え、責任等）を各家庭に押し付けているように感じます。謝金等は、公金で行えるようにするために学校ではなく、教育行政（国県町）が考えて欲しいです。
- 学校のクラブ活動なら費用がかからないが地域クラブなら活動費がかかるのでクラブをする子どもたちが減るんじゃないですか？活動場所は中学校で出来たら1番いいですけど。

2.実証内容と成果③

参考資料



【妙寺クラブ（中体連県大会）】



【妙寺クラブ（笠田中学校との合同練習）】



【妙寺中学校バレーボール部（中体連大会）】



【妙寺クラブ（中学生と一緒に練習する小学生と保育園児）】



【妙寺クラブ（練習参加の保護者）】

2.実証内容と成果④

参考資料



【ブルッフラ（中体連地方大会優勝）】



【ブルッフラ（妙寺クラブとの合同練習）】



【ブルッフラ（小学生を教える中学生、男子を含む小学生）】



【オーストラリア人男子中学生との交流】

2.実証内容と成果⑤

参考資料



【妙寺クラブ（家族・友人と地域の3時間耐久マラソン参加）】



【ブルッフラ（清掃ボランティア）】



【ブルッフラ（地域の万葉マラソン参加）】



【ブルッフラ（清掃ボランティア）】

2.実証内容と成果⑥

参考資料



【第2回推進協議】



【第2回推進協議会で意見を述べるブルッラ選手】



【第2回推進協議会で意見を述べる妙寺クラブ選手】



【第2回推進協議会で質問に答える保護者】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、総合型地域スポーツクラブ（憩楽クラブ）、競技団体
地域移行に係る推進協議会、町長部局、町教委（教育総務課）

経過

令和3年度より「地域部活動推進事業」を受託し地域クラブ活動を開始した。令和4年度に、中学校教員、保護者、生徒に地域移行の概要を周知をした。また、推進協議会を設置した。令和5年度～7年度は、「実証事業」を受託した。そのなかで、町内全小・中教員対象に地域移行に関する研修会を実施した。また、コーディネーターを新たに配置し、学校・地域・生徒・保護者間の合意形成に努めるとともに、ガイドラインを作成し、地域クラブ活動の拡充を図っている。

実施内容、工夫した点等

- 完全移行した地域クラブは2クラブ、及び、地域指導者と兼業兼職の教員と一緒に指導する部活は4部活ともに生徒や保護者の満足度は高い。
- 令和7年度から拠点校方式を導入し、7年度は、笠田中学校の

生徒が妙寺中学校の女子バスケットボール部で活動した。

- 7年度に「かつらぎ町認定地域クラブ要綱」の原案を作成し、推進協議会で内容を審議した。

実施にあたって生じた課題

- 慢性的、将来的な指導者不足。
- 教員が学校の部活を離れ地域クラブの設立を模索したが、指導者資格取得が壁となり実現しない例があった。
- 休日のみならず、平日の指導を求める声があったが、指導者の仕事や家庭の事情により実現しない例があった。

今後の展開

- 令和8年度から、小学校教員が中心となりサッカーの地域クラブ設立を目指しており、現段階で中体連の承認を得ている。
- 総合型地域スポーツクラブと連携し、新たに「ゆるやかなクラブ（マルチクラブ）」設立を模索していく。
- 持続可能な地域クラブの運営のために、会費等負担の必要性について合意形成を図っていく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ								
	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)
本町	改革推進期間 (休日に加え平日の移行も目指す) (状況に応じ教員と地域指導者が一緒に指導する)		改革実行期間（前期）			改革実行期間（後期）		
県	改革準備期間 (まずは休日の部活動から段階的に地域移行)			地域クラブ活動の充実 (休日については、原則として全ての学校部活動の地域移行を目指す) 県及び市町村が幅広い関係者の理解と協力の下、平日・休日を通した活動を包括的に企画・調整し、多様な選択肢の中から地域の実情等に あった望ましい在り方を見出していく				

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県湯浅町 (連携：広川町)

自治体名：和歌山県湯浅町
担当課名：教育委員会 学校教育係
電話番号：0737-63-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	20.8km ²
人口	10,504人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	267人
部活動数 (運動部活動のみ)	15部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

湯浅町は1町1中の学校配置であり、令和7年度の湯浅中学校は全校生徒267名の中規模校として運営されている。部活動は文化・スポーツ合わせて15種目が設置されており、生徒は多様な活動に参加できる環境が整っている。また、町外には硬式野球やバドミントンなど、中学生が加入可能な地域スポーツ団体も一定数存在している。しかし、本町の部活動改革を進めるうえでは、主に二つの課題が顕在化している。

第一の課題は、少子化に伴う活動環境の縮小である。令和17年度には湯浅中学校の生徒数が現在より100名以上減少し、約160名規模になることが見込まれている。有田地方全体でも令和15年度に生徒数が約30%減少すると推計されており、湯浅町単独では約45%という大幅な減少率が示されている。生徒数・教員数の減少は部活動の維持を困難にし、特に団体競技を中心に活動の継続が危ぶまれる状況である。結果として、生徒が選択できる種目が減少し、将来の体験活動の保障が難しくなることが懸念される。実際、湯浅町・広川町の教職員の約30%が少子化対策も

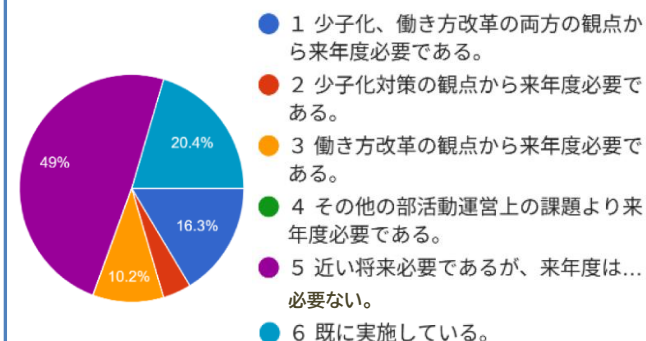
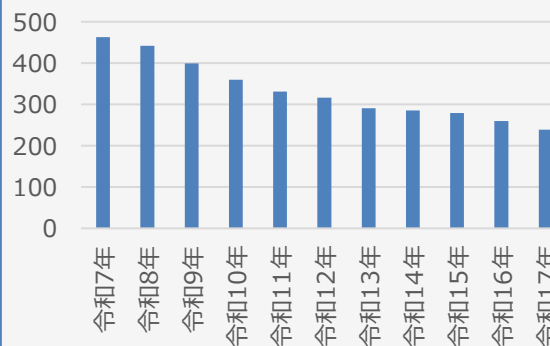
しくは働き方改革の観点から部活動の地域移行等の対策が必要であると回答しており、現場でも危機感が共有されつつある。

第二の課題は、地域人材の確保が極めて困難である点である。湯浅町は地理的に小規模であり、町内の人材のみで全ての種目の指導者を確保することは構造的に難しい。指導者が十分に育成されていないことに加え、中学校体育連盟主催の大会に参加できる団体がないため、現状では中学生の受け皿として機能していない。

また、体育協会に登録されている団体の中にも、中学生の体験活動を受け入れる意思や体制が整っている団体はまだ少なく、地域側の受け皿づくりが十分に進んでいない。

以上のように、湯浅町では少子化による活動環境の縮小と地域人材の不足が同時に進行しており、町単独での部活動維持には限界が見え始めている。今後は、有田地方全体での広域的な連携や、地域クラブの育成・指導者確保の仕組みづくりなど、持続可能な活動環境を構築するための取り組みが求められる。

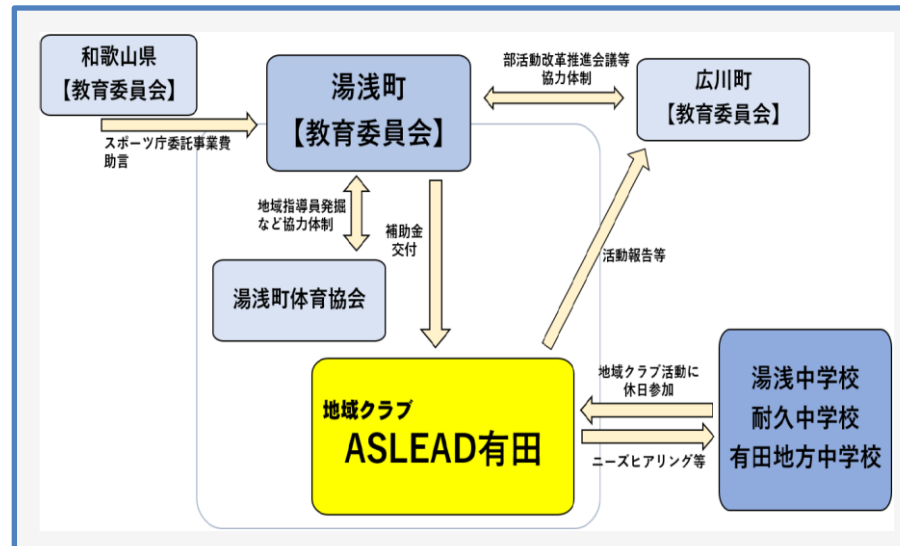
湯浅町における小中学生の人口推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域クラブASLEAD有田の事務局を置き、各中学校や地域における各部署との会議の連絡および調整や、指導員の地域人材の発掘などにおける事業のコーディネートを行う。

◎首長部局

- ・地域クラブASLEAD有田の地域における周知活動や地域人材発掘における広報活動に協力する。
- ・補助金交付などの調整を行う。

年間の事業スケジュール

ASLEAD有田年間スケジュール

令和7年5月	ASLEAD有田総会の開催
令和7年6月	ASLEAD有田第1回理事会の開催
令和7年7月	中体連主催大会出場
令和7年9月	企業・大学と連携した練習会の開催
令和7年10月	ASLEAD有田第2回理事会の開催
令和7年11月	小学校5、6年生・二町の教職員を対象にしたアンケート調査の実施 公式ホームページ開設
令和8年1月	小学5・6年生を対象にした体験会の開催
令和8年2月	ASLEAD有田第2回総会の開催

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	5クラブ（5部活動）	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	3人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ASLEAD 有田バスケットボール部	教育委員会 設立の地域 スポーツクラブ	バスケットボール部	・平日0回 ・休日5回	【練習】 9:00～ 12:00 【大会・練習 試合】終日	中1：9名 中2：13名 中3：21名	年間	7人	2人	なし	中体連： 地域クラブ
ASLEAD 有田剣道部	教育委員会 設立の地域 スポーツクラブ	剣道部	・平日0回 ・休日5回	【練習】 9:00～ 12:00 【大会・練習 試合】終日	中1：4名 中2：6名 中3：5名	年間	7人	2人	なし	中体連： 地域クラブ
ASLEAD 有田軟式野球部	教育委員会 設立の地域 スポーツクラブ	軟式野球部	・平日0回 ・休日5回	【練習】 9:00～ 12:00 【大会・練習 試合】終日	中1：6名 中2：6名 中3：5名	年間	6人	1人	なし	中体連： 地域クラブ

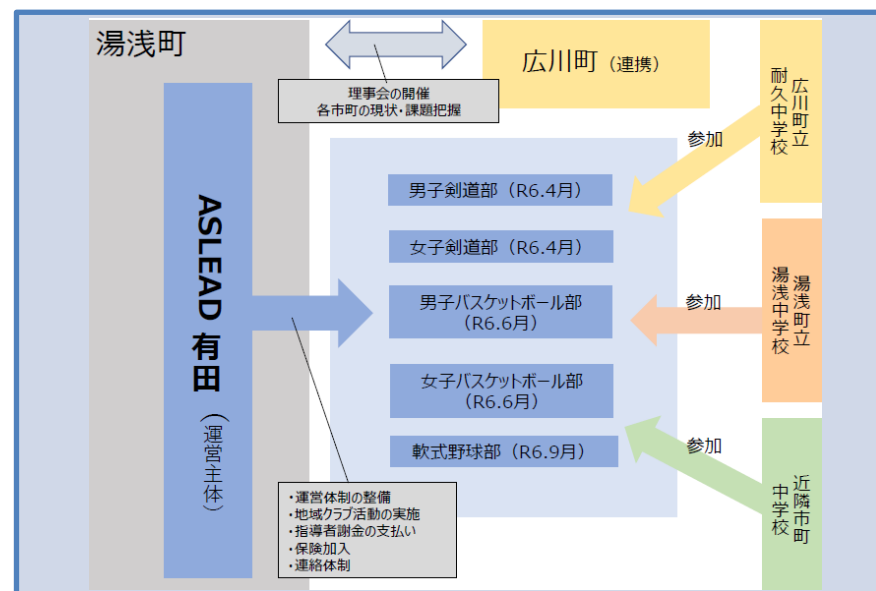
2.実証内容と成果

主な取組例

●地域クラブ ASLEAD有田 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール部・剣道部・野球部
運営団体名	ASLEAD有田
期間と日数	バスケットボール：年間通じて月5回程度 剣道：年間通じて月5回程度 野球：年間を通して月5回程度
指導者の主な属性	小中高教職員、役場職員、消防職員等
活動場所	中学校、湯浅町・広川町公共施設
主な移動手段	徒歩、湯浅町・広川町公共施設
1人あたりの参加会費等（年額）	参加費なし（遠征費等別途）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 理事会12名
役割：教育委員会・体育協会を中心にクラブ運営および管理を行う。
- 代表指導員3名
役割：各種目の地域クラブ活動における代表として、生徒への指導を行う。
- 指導員20名
役割：各種目の地域クラブ活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

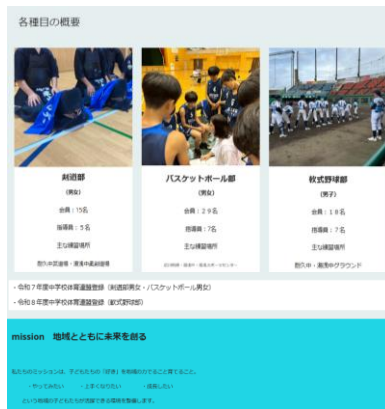
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

地域クラブ「ASLEAD有田」の事務局を湯浅町教育委員会内に設置し、事務局は総会・理事会の開催をコーディネートした。これらの会議には、広川町を含む両教育委員会の教育長や指導主事、体育協会委員を招集し、規約の改廃、事業計画や予算の承認、地域人材の発掘、新たに地域移行が可能な文化・スポーツ種目の検討、指導員の資質向上を図る研修など、多岐にわたる協議を行った。

また、生徒・保護者の合意形成を得るために保護者説明会を行ったり、中学校体育連盟主催大会に出場できるように、地域クラブとしての参加申請を行ったりした。

コーディネーターは、学校教育としての部活動と、社会教育としての地域クラブ活動をつなぐ立場として、教育委員会指導主事が担った。指導主事は事務局としても機能し、関係機関との連絡調整、収支予算の管理、バスの手配など、運営に必要な事務作業を兼務しながら、地域クラブ活動の基盤づくりを主導した。



ASLEAD有田ホームページ



長野県南佐久郡への視察の様子

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

地域クラブ「ASLEAD有田」では、活動内容を地域に広く周知し、保護者・地域住民・関係機関との連携を強化するため、専用のホームページを立ち上げた。このホームページは、クラブの理念や活動方針、種目ごとの概要、活動報告、ガイドライン、支援のお願いなど、多様な情報を一元的に掲載する場として機能している。特に、活動報告や最新のお知らせを随時更新することで、地域の人々がクラブの取り組みをリアルタイムで把握できる環境を整えた。

運営の効率化を目的とした先進地域視察の実施

地域クラブ活動の持続可能な運営体制を構築するため、先進地域への視察を実施した。視察では、地域クラブの組織運営、指導者の確保方法、行政と地域団体の役割分担、財源確保の仕組みなど、実際に成果を上げている地域の取り組みを直接学ぶ機会となった。特に、地域住民・学校・行政が連携しながら地域クラブを支える体制づくりや、地域の実情に応じた柔軟な運営方法など、湯浅町が今後取り入れるべき具体的な視点を獲得することができた。また、視察を通じて、クラブ運営における事務局機能の重要性や、指導者育成の体系化、地域人材の発掘方法など、持続可能な組織づくりに必要な要素を整理することができた。これにより、「ASLEAD有田」の組織の在り方を検討する際の基盤が強化され、より充実した活動を実現するための方向性が明確になった。視察で得た知見は、今後の事業計画や研修内容の改善にも活かされ、地域クラブ活動の質向上に寄与するものとなっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

本事業では、小規模地域の特性を踏まえ、まず学校教員が中心となって活動を支援しながら、徐々に地域指導者へ移行する段階的な仕組みを構築した。都市部のように大規模な人材募集が難しい地域であるため、学校や地域関係者が指導者を推薦する方式を採用し、結果として一定の質を備えた指導者を安定的に確保することができた。また、小学校教員や高等学校教員など、多様な人材が兼職・兼業として参画し、専門性と地域性を両立した指導体制が形成された。さらに、全種目を対象とした講習会を実施したことで、指導者と会員双方の意欲向上やスキルアップにつながった。

指導者研修の内容

研修名	実力発揮のためのメンタルトレーニング
講師	大阪体育大学教授 土屋 裕睦
研修内容	この講習会では、まず自分のやる気や心の状態を振り返り、挨拶や簡単なワークを通して気持ちの変化に気づくことからスタートした。続いて、集中力・チームワーク・リラックスといった心の状態がパフォーマンスにどのように影響するかを体験を通して理解することができた。これらの学びは会員のやる気向上に役立つだけでなく、指導者がどのような声かけや関わり方をすればよいかを考える大きな示唆となり、非常に有意義な講習会となった。

指導者研修受講者の声

●参加者の声（指導員）

講習会では、実際のプロアスリートへのメンタル支援の事例や映像を交えながら、体験的に学べる内容を提供していただき、とても楽しく参加することができた。

自分は学校の先生ではないため、これまで子どもたちへの声かけに難しさを感じていたが、今回の講習を通して、子どもたちがより前向きにスポーツに取り組めるような関わり方のヒントを得ることができた。今後は、学んだことを活かしながら、子どもたちのやる気を引き出す声かけをさらに磨いていきたい。



●参加者の声（会員）

参加者①

先生のお話を聞いて、始めはメンタルに自信がなかったけど、明るく考えると不安になることもなかったの、これからは明るい未来を想像しながら試合に挑戦していきたいと思いました。話が聞けて良かったです！

参加者②

気持ち次第でやる気は変わるとわかったので明日の練習試合から自分たちで声をかけあって盛り上げていきたい。緊張しているときは、教えてもらった深呼吸などのリラックス方法を試していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

本町では、地域クラブ活動の指導者の質を高めるため、指導者ライセンス取得にかかる初期費用を支援し、資格取得を積極的に後押ししている。今年度は1名がコーチライセンスD級からC級に更新（支出16,500円）することができた。しかし、現状ではライセンス保持者がまだ十分とは言えないため、指導者が経済的負担を感じずにコーチ及び審判員ライセンスの講習や研修へ参加できる環境を整え、より多くの指導者が資格取得に挑戦できるよう取り組みを強化している。これにより、地域全体の指導力向上と、子どもたちが安心して質の高い指導を受けられる体制づくりを進めている。

○ライセンス保有者について

指導者総数	20人
資格所持指導者数	3人
本年度資格を取得した指導者（上級への移行）	1人

平日・休日の一貫指導に関する取組

地域クラブ活動の運営を効率化し、指導者の負担を軽減するため、本町では「部活アプリ」を活用したデジタル化を進めている。このアプリにより、指導者は練習日程や会場、持ち物などの情報を一元的に管理でき、変更が生じた際も迅速に生徒・保護者へ共有できるようになった。従来の紙配布や個別連絡に比べ、情報伝達にかかる手間が大幅に削減されている。また、生徒の出欠状況や活動記録、個別の目標設定をアプリ上で管理できるため、指導者は生徒一人ひとりの成長を継続的に把握しやすくなった。保護者も活動状況を随時確認できることから、地域クラブへの理解と協力が得やすくなるという効果も生まれている。さらに、指導者同士が練習内容や指導方針を共有できる仕組みが整ったことで、地域全体で指導力を高める環境づくりにもつながっている。加えて、休日の活動には原則として学校教員が最低一名は帯同するため、地域指導員との連携や情報共有が円滑に進み、学校と地域が協働して子どもたちを支える体制の強化にもつながっている。

OASFEELの『部活アプリ』の活用

21:15



ASLEAD有田

バスケットボール部



種類 学年 日付 未読



...もっと見る

いいね コメント



チーム記録

2025/9/27(土)

今日は湯中の選手でテスト明けの練習になりました。ハンドリング、体力共に1週間のブランクがありましたが、すぐに慣れて意識高く練習できました。特に突き出しミートやシュート後の動きについて新しい感覚が身についていると嬉しいです😊 上垣コーチが今日から膝...



ホーム画面

いいね コメント

活動記録 スケジュール チーム連絡 目標管理 メニュー

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

本町では、地域クラブ活動の技術力向上と地域連携の強化を図るため、各種目において企業や大学と連携した事業を積極的に展開した。剣道部では大阪体育大学剣道部のコーチを招へいし、専門的な技術講習会を実施した。バスケットボール部では、男子が京都産業大学のコーチ、女子が地元企業である紀陽銀行と連携したバスケットボールクリニックを開催した。また、野球部は和歌山大学硬式野球部との合同練習会を行い、主体的に競技へ取り組む姿勢や考え方を学ぶ貴重な機会となった。

これらの取り組みにより、会員の技術力や意欲が大きく向上しただけでなく、指導員にとっても新たな指導方法や視点を得られる学びの場となった。大学や企業との協働は、地域全体で子どもたちを育てる体制づくりにもつながり、今後のクラブ活動の発展に向けた重要な基盤となっている。

取組後の会員の声

剣道部会員

触刃の間で、120%声を出すこと。前後だけの攻めだけでなく、左右にも足を動かす。面小手だと、面をたくさんせめてから打ったり、相手が一本とって守りに入っている時に打つなど、具体的に見本を見せてくれながらおしえてくれたのでとても分かりやすかったです。

バスケットボールクリニックを通して

中野コーチは、常にMAXで練習に取り組むことが大事だということを強調していました。ハンドリングやパスも失敗するくらいMAXで取り組むことが上達する秘訣だと教えてくれたので、その考え方で練習に取り組んでいきたいと思いました。

和歌山大学との合同練習を終えて

大学生は、コーチが教えてくれるというより、自分たちでメニューを考え、バッティングやキャッチングに対しても、気を付けているポイントがたくさんあり、すごく勉強になった。大学生のように野球に詳しくなったらもっと楽しめるように感じた。



和歌山大学との合同練習会



大阪体育大学コーチによる講習会



紀陽銀行のバスケットボールクリニック

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

本町では、少子化に伴う部活動の存続困難という課題に対応するため、近隣の広川町と連携し、部活動の地域展開を進めている。単独校では部員数が不足し、競技として成立しない種目が増えていたが、複数校・複数自治体での合同チーム編成により、活動機会の確保と競技力の維持が可能となった。また、二町の生徒と一緒に活動することで、学校の枠を超えた新たな人間関係が生まれ、協働的な学びが促進されている。

取組の成果

- 各町が主催する町のマラソン大会や駅伝大会にも地域クラブとして参加でき、中学生の参加が地域のイベントを盛り上げる一助となった。
- 二町の強みを生かして、両町の公共施設を使用することができたため、会員の活動場所が十分確保された。
- 寄附についても二町の企業から支援をいただくことができた。

【湯浅町の広報誌で寄附のお礼を掲載】



今後の取組における課題

これまで広川町と連携し、少子化により単独校では維持が難しくなった部活動を合同で運営することで、生徒の競技機会を確保してきた。二町による連携は、人数不足による大会出場の困難を解消し、他校の生徒との交流を生み出すなど一定の成果を上げている。しかし、少子化の進行は今後さらに加速することが見込まれ、二町のみでの合同チームでは、将来的に競技として成立する人数を安定的に確保することが難しくなる可能性が高い。本町としては、二町連携をさらに発展させ、より広い範囲での広域的な部活動の地域展開を進めていく必要がある。具体的には、複数自治体が協力し、それぞれの地域が担当する種目を分担することで、生徒が遠方まで移動しなくても、近隣で多様な種目に参加できる環境を整える仕組みが求められる。

課題への対応方針

来年度からは、湯浅町・広川町の指導主事に加え、有田川町の指導主事にも参加を依頼し、三町による「地域展開連絡協議会」を開催する予定である。また、有田市にもオブザーバーとして参画を求め、広域での活動の在り方について意見交換を行いながら、将来的な連携の可能性を探っていく。これにより、地域全体で課題を共有し、持続可能な運営体制の構築に向けた協議を進めることができる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

本町では、地域クラブ活動の内容をより充実させるため、小学生を対象とした体験事業や競技機会の拡大に取り組んだ。全種目で小学校5・6年生を対象とした体験会と保護者説明会を実施し、地域クラブの活動内容を広く知ってもらう機会を設けた。特に野球部では、小学生体験を定期的に行い、活動の周知を図るとともに、異年齢での関わりを通して会員の成長にもつながる取り組みとなった。

また、バスケットボール部では、試合に出る機会が少ない1年生のために独自の試合機会を設定し、県外チームとの対戦を含め、より良い環境で活躍できる場を確保した。さらに、試合だけでなく、チーム間の交流を目的としたシューティングゲームなども実施し、バスケットボールを通じた交流の輪を広げることができた。これらの取り組みにより、会員の意欲向上や競技力の向上に寄与しただけでなく、地域全体で子どもたちを育てる環境づくりにもつながり、活動内容のさらなる充実を図ることができた。



軟式野球部による小学生体験会



体験日 令和8年1月10日(土)
時間 13時30分～16時00分
種目 剣道・バスケットボール・軟式野球
場所 湯浅中学校(体育館に集合してください)
持ち物 運動できる服装・体育館シューズ
参加種目の道具があれば持ってきてください
体験参加費はホームページまたはお電話よりお申込みください
ASLEAD有田事務局
湯浅町教育委員会 (0737-63-1111)



公式の試合だけではなく、1年生の試合やシューティングゲームで他のチームと交流を広げる選手たち



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

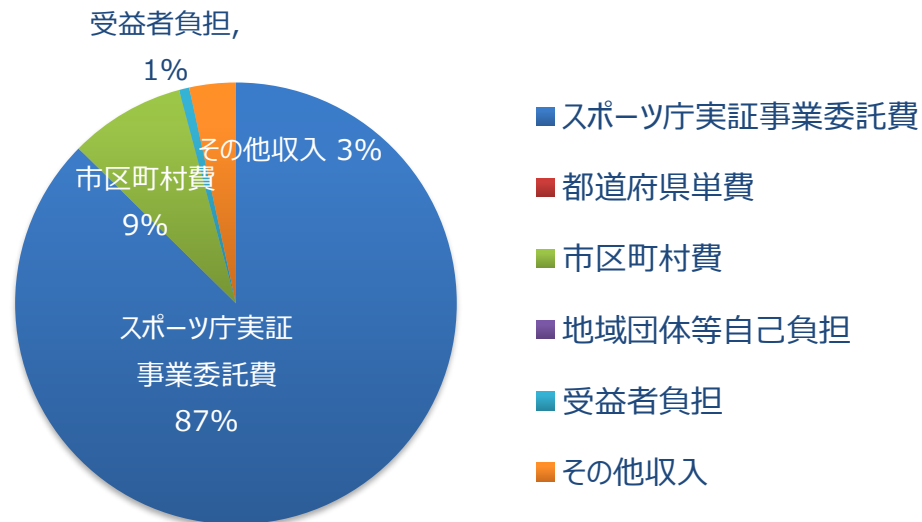


取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

本町の地域展開における収支構造を見ると、スポーツ庁の委託事業費が全体の約84%を占めており、国費への依存度が非常に高い状況にある。一方で、市町村からの補助や寄附による収入の仕組みが徐々に整いつつあり、財源の多様化が進み始めている。今後は、こうした外部支援に加えて、受益者負担の在り方についても検討し、持続可能な運営体制を構築していく必要がある。令和6年度および令和7年度については、国からの委託金により、会員の活動費を補助することができ、事業運営の安定化に寄与した。国費依存からの段階的な脱却に向けて検討していきたい。



●収入「金額（円）」

項目	費用	割合
都道府県委託料	7,059,400	87%
市区町村費 (湯浅町・広川町の 全中学生数に応じて按分)	685,600	9%
受益者負担	60,000	1%
その他収入	275,000	3%
合計	8,080,000	

●支出「金額（円）」

項目	費用	割合
地域クラブ運営費・活動費		
人件費・賃金	5,232,210	65%
諸謝金	66,000	1%
旅費・交通費	121,027	2%
借料及び損料	927,057	11%
消耗品費	598,590	7%
会議費	0	0%
印刷製本費	0	0%
通信運搬費	0	0%
雑役務費	124,360	2%
保険料	100,650	1%
その他	910,106	11%
合計	8,080,000	—

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度、湯浅町では、少子化による部活動の縮小や指導者不足といった課題に対応するため、地域クラブ「ASLEAD有田」を中心とした地域展開の実証を進めた。

教育委員会内に事務局を設置し、総会・理事会の運営、指導者の発掘、予算管理、バス手配など、地域クラブ運営に必要な機能を行政が一体的に担う体制を整備した。バスケットボール（男・女）、剣道

（男・女）、軟式野球の5種目では、湯浅町・広川町双方の施設を活用しながら年間を通じて安定した活動を実施し、中体連大会や各種協会主催大会への参加など、年間の活動サイクルが概ね確立してきた。特に今年度は、会員および指導者双方の「充実感の向上」を重点に据え、指導者数の確保によるきめ細かな指導や、試合経験の拡大に取り組んだ。これらの取組を地域に積極的に発信したことで、地域クラブの魅力が広く認知され、来年度以降の会員・指導者の確保、新たな種目の拡充、さらには広域的な地域展開につながる見通しを持つことができた。

連携面では、大阪体育大学・京都産業大学・紀陽銀行などの協働により、専門的な技術指導や合同練習会を実施し、生徒の技術向上と指導者の学びの機会を創出した。こうした外部連携は、地域クラブの価値向上に加え、地域内外の多様な主体とのつながりを広げる契機となった。

一方で、指導者確保については、多様な兼職・兼業の仕組みが整いつつあるものの、事務的業務が教育委員会担当に集中するなど、運営面での分業体制や効率化の仕組みづくりが今後の課題として残った。持続可能な運営体制を構築するためには、事務局機能の分散やデジタル化の推進、関係団体との役割分担の明確化など、運営システム全体の再設計が求められる。

●成果の評価

今年度は、来年度以降の本格的な平日運用に向けた「準備段階」と位置づけ、休日中心の活動を通じて地域クラブの基盤整備を進めてきた。休日の活動では、指導者配置や活動場所の確保、試合機会の創出など、地域展開として必要な運営要素が概ね機能し、一定の成果が確認できた。これらの成果は、来年度の平日展開に向けた重要なステップであり、実証として評価できるものである。

一方で、平日運用に向けては、指導者の量的確保や地域展開の認知度向上が引き続き大きな課題として明確になった。特に、平日夕方の活動を安定的に実施するためには、教員以外の地域人材の発掘・育成が不可欠であり、兼職・兼業制度の活用や、地域団体との連携強化が求められる。

今年度は、小学校での保護者説明会や新入生保護者説明会を実施し、地域クラブの意義や活動内容を丁寧に伝えてきたが、結果として新たな種目の拡充には至らなかった。今後は、学校側との連携をさらに強化し、特に管理職を組織のメンバーとして位置づけることで、学校との情報共有や意思決定のスピードを高め、種目拡充に向けた環境整備を進めていく必要がある。

●今後に向けて

今年度は休日中心の活動を通じて運営基盤を整えた「準備段階」と位置づけられ、来年度はその成果を踏まえた本格的な平日展開に移行する重要な年となる。

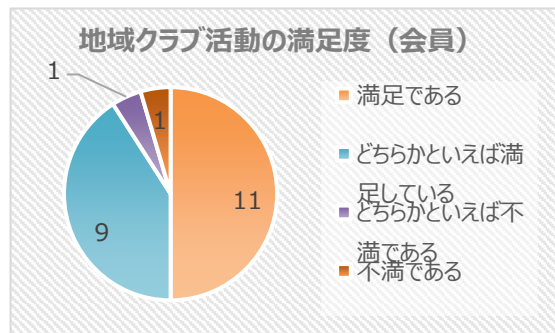
3年目となる来年度は、立ち上げ段階の組織から、より実用的で持続可能な組織へと再編することが求められる。特に、平日運用を安定させるためには、教員以外の地域人材の発掘・育成を進め、兼職・兼業制度の活用を含めた指導者確保の仕組みを強化する必要がある。また、地域展開の認知度をさらに高めるため、保護者説明会や学校との連携を通じた広報を継続的にを行い、地域全体でクラブを支える機運を高めていくことが重要である。

2.実証内容と成果②

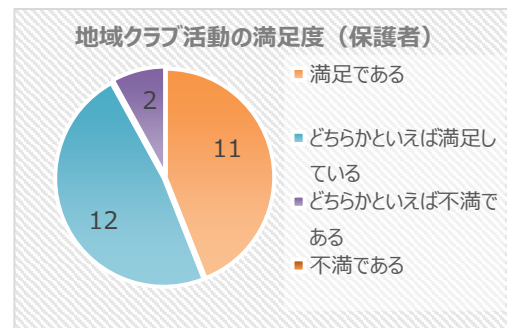
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（会員と保護者の満足度について）

Q.地域クラブ活動に対する満足度を教えてください。（回答22名）



Q.お子さんが通っている地域クラブ活動に対する満足度を教えてください。（回答25名）



●参加者/関係者の声

参加者/会員

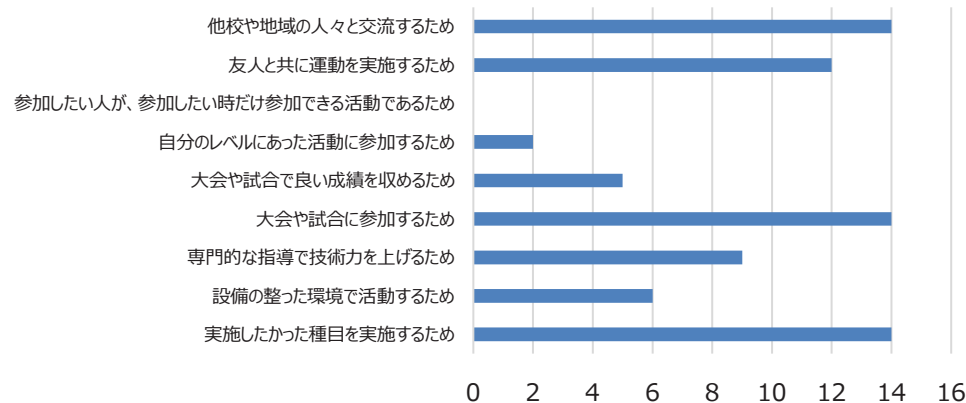
たくさんの仲間とスポーツを楽しむことが一番の良さだと思います。交流も広がり、地域クラブ以外でも一緒に遊んだりしています。仲間と共に最後の大会に向けて自分をしっかり鍛えていきたいです。

参加者/指導員（地域の指導者）

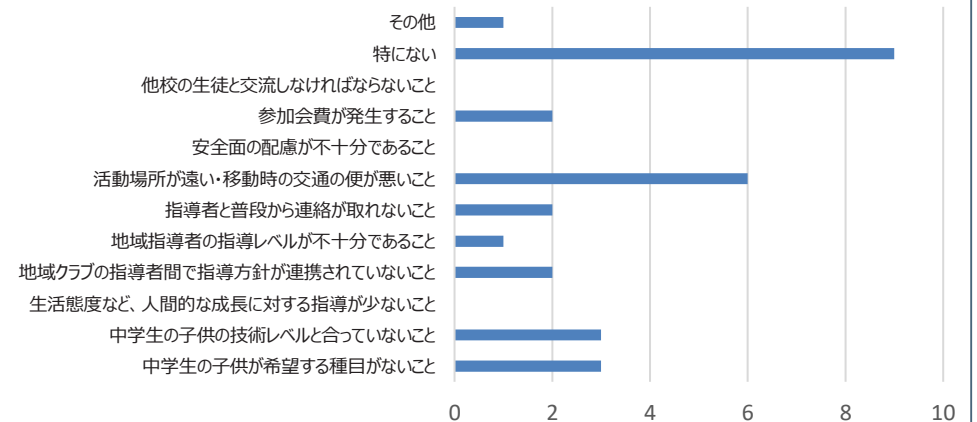
以前小学生を教えていた経験があったが、より専門的な指導をしたいと思い、指導員を希望した。子ども達を教えるのが楽しく、地域クラブを通して子ども達の成長を見れるのが何よりうれしく、いきがいとなっています。

●アンケート結果（保護者が感じる満足していることと課題に思っていること）

お子さんが通っている地域クラブで満足していること（複数回答可）



お子さんが通っている地域クラブで課題に思っていること（複数回答可）



2.実証内容と成果④

参考資料



【全種目全指導員対象のメンタルトレーニング講習会】



【ユニフォーム補助への感謝を胸に、中体連大会に出場】



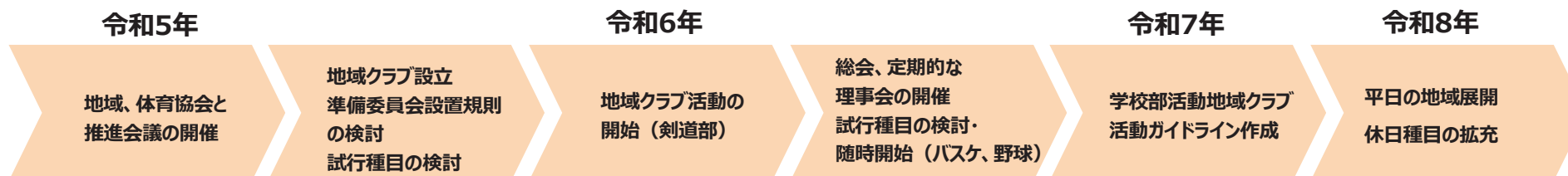
【湯浅町マラソン大会に参加して、地域イベントに貢献】



【クリニックのお礼込めて、紀陽銀行ハートビーツの試合を応援】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ASLEAD有田の設立（令和6年）

● ステークホルダー

ASLEAD有田 教育委員会（湯浅町・広川町）会員 指導員
中体連（大会に関わる関係団体）

● 経過

- ・ 地域における持続可能な部活動環境の構築を目的として、ASLEAD有田を設立。
- ・ 剣道・バスケットボール・野球の各種目で、代表指導員と複数指導員による指導体制を整備。
- ・ 中体連大会への参加に向け、地域クラブとしての登録手続きや必要書類の整備を進めた。

● 実施にあたって生じた課題

- ・ 「地域移行」という新しい仕組みについて、生徒・保護者・指導者の理解を得るまでに時間を要した。
- ・ 指導者の構成において、2校教職員以外の指導員が27%にとどまり、地域人材の確保が課題となった。
- ・ 学校と地域クラブの役割分担や、安全管理の責任範囲について、現場での調整が必要であった。

● 実施内容、工夫した点 等

- ・ 生徒・保護者説明会の開催、中学校へのヒアリング、アンケート調査を実施し、関係者の不安や疑問を丁寧に把握・解消した。
- ・ 理事会・総会の運営体制を整備し、意思決定の透明性と組織運営の安定化を図った。
- ・ 指導者の兼職兼業に関する手続きを標準化し、学校と地域の連携が円滑に進む仕組みを構築した。

ASLEAD有田の設立（令和7年）

● ステークホルダー

ASLEAD有田・教育委員会（湯浅町・広川町）会員 指導員 中体連（大会に関わる関係団体）
先進地域（視察）

● 経過

- ・ 各種目の活動をより充実させるため、地域の指導者確保に重点的に取り組んだ。
- ・ 活動内容や成果を広く共有するため、ASLEAD有田のホームページを開設し、情報発信を強化した。
- ・ 平日の活動運用を見据え、各中学校との調整や、部活動地域展開の先進地域への視察を実施し、運営モデルの検討を深めた。

● 実施にあたって生じた課題

- ・ 平日運用に向けて、学校との役割分担や安全管理の整理が必要であり、調整に時間を要した。
- ・ 指導者確保において、地域人材の発掘・育成が継続的な課題となった。
- ・ 中体連登録に向けた手続きや基準の確認など、地域クラブとしての大会参加に関する調整事項が多かった。

● 実施内容、工夫した点 等

- ・ 指導者候補者への働きかけや、教員・地域団体からの推薦を通じて、地域指導者の確保を強化した。
- ・ ホームページを活用し、活動の様子・大会結果・体験会情報などを発信することで、地域クラブの認知向上と保護者の理解促進を図った。
- ・ 中体連登録に向けて、必要な書類整備や学校との連携を進め、大会参加に向けた体制を構築した。
- ・ 先進地域への視察を通じて、平日運用の方法や安全管理の仕組みを学び、自地域に適した運営モデルの検討に活かした。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

		2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度
和歌山県 地域移行達成時期のイメージ			改革準備期間			改革実行期間（前期）	
和歌山県	協議会	協議会の設置・運営					
		好事例の情報発信 各地域での意見交流会の実施					
	方針・ガイドライン	和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針作成	和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針周知				
湯浅町	協議会	湯浅町・広川町をはじめとする地域の協議会の開催 教育委員会、体育協会、学校との推進会議の開催 地域クラブ設立準備委員会の開催	ASLEAD有田総会 定期的な理事会の開催 中学校ヒアリング				
	ニーズ把握	児童生徒・教職員へのニーズ調査			広域の地域展開に向けたニーズの把握		
	ASLEAD有田地域クラブ	ASLEAD有田の設立	試行種目の運用	スポーツ種目の増設 ※文化芸術部の1種目を地域移行	平日の地域展開実施 スポーツ・文化芸術部の増設	平日の地域展開 スポーツ・文化芸術部の増設	全種目休日の部活動地域展開
	方針・ガイドライン		運動部活動・地域クラブ活動ガイドラインの検討	運動部活動・地域クラブ活動ガイドラインの策定・改訂	平日の地域展開に向けた規約の改定		
	運営主体		教育委員会主体地域クラブとして運営		組織の再編 広域での地域展開の検討 認定制度の検討		
	委託事業		国費事業の実証事業参加				
学校	部活動再編	全員部活制の廃止	部活動加入自由制の導入	教員の働き方及び部活動再編成検討			
	ニーズ把握	生徒、教職員を対象とした部活動の状況把握			生徒数の把握、地域展開に向けた種目の把握		